

中学校 歴史046-72『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』

令和7(2025)年度版
内容解説資料

「教科書発行者行動規範」に
則った資料です。



中学校社会科Web
もご覧ください。

文部科学省検定済教科書

46 帝国

歴史046-72

中学校社会科用



社会科
中学生の
歴史

日本の歩みと世界の動き

さまざまな視点から歴史がつかめ、
多面的・多角的に考えられる
教科書

帝国書院

為政者のみならず、さまざま な人々が つくりあげてきた歴史を、生き生きと描いた教科書



↑p.90-91 タイムトラベル© 室町時代を眺めてみよう (15世紀ごろのある場面) 【原寸大】

人々のたくま しい姿が見える、時代の息吹が聞こえる



↑p.276-277 高度経済成長期を眺めてみよう(1960～70年ごろのある場面)

『社会科 中学生の歴史』に込めた想い

多様な人々の歴史から未来を考えていける教科書を目指して

著作者代表 東京大学 名誉教授 黒田日出男
帝国書院 編集部

日本の歴史は、為政者のみならず、庶民や差別を受けた人々、女性や子どもや老人など、多様な立場や境遇にある人々が関わり合う中でつくられてきました。また、政権のおかれた「中央」だけでなく、「地域」どうしが交流したり、衝突したりする中で、そして「世界」とのさまざまな接触や交通を繰り返すことによって、歩を進めてきました。

本書では、さまざまな立場と視点から歴史を「見る」ということを重視しました。たとえば、当時の社会の様子を描いたイラスト（タイムトラベル、世界とのつながりを考えよう）を用意し、当時の社会を構成している多様な人々の営みや、世界の中での日本の歴史をイメージ豊かに捉えられるように工夫しています。また、資料を充実させ、さまざまな立場の人々や、地域の多様な歴史を要所に記述することで、出来事の起こった背景を掘り下げやすくしています。

歴史の舞台に立って、人々がおかれた多様な状況や願いへの理解を深めていけば、現代の社会についても、多様性を大切にされた発展や成長を考えていけるでしょう。本書が中学生の皆さんにとって、未来を考えていくのに役立つ教科書となることを願っています。

本資料のもくじ

特色 1	人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図	5
	時代の特色がわかる「タイムトラベル」	5
	世界の歴史がイメージできる「世界とのつながりを考えよう イラスト編」	13
	世界が一望できる「世界とのつながりを考えよう 地図編」	19
特色 2	多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫	23
	さまざまな視点から歴史を見ることができる「地域史」・「人物史」	23
	中央の歴史だけでなく地方の歴史も重視した「琉球とアイヌ民族」	25
	政治史だけでなく伝統文化への関心を高める「文化史」	27
特色 3	「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成	29
	見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援	29
	対話を通して学びを深める「アクティブ歴史」	39
特色 4	「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫	41
	課題に対する先人たちの努力や工夫の事例を多数掲載	41
	歴史で学んだことを未来に生かす「これからの社会を構想しよう」	43
特色 5	「個別最適な学び」を支援するコンテンツ	45
	一人一台端末で活用できるQRコンテンツ	45
その他の特色	「歴史的な見方・考え方」を働かせる工夫	49
社会科3分野共通の特色／サポート／特色一覧		
社会科3分野共通の特色	①3分野の連携を図った10のポイント	53
	②学習がより深まる他分野および地図帳との連携 ～「未来に向けて」を活用して～	55
サポート	①インクルーシブ教育への対応	57
	②教師用指導書	59
	③デジタル教科書・教材	61
特色一覧	①教育基本法との対応	63
	②検討の観点から見た内容の特色	65
	『社会科 中学生の歴史』の全体構成(もくじ)	69
	『社会科 中学生の歴史』著作関係者	70

※本資料に掲載している教科書紙面は、見本本と一部内容が異なる場合があります。

人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

時代の特色がわかる「タイムトラベル」

その時代の社会の様子を、絵画や写真、遺構などの歴史的資料に基づいて描いた「タイムトラベル」を設けています。イラストで時代のイメージを視覚的に捉えられるようにしています。

p.134-135



タイムトラベル⑧ 江戸時代を眺めてみよう

(17~18世紀ごろのある場面) 安土桃山時代 p.114~115 明治時代 p.184~185



次の場面を探してみよう!

次の場面は、**ア**~**フ**のどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。

- ① 江戸から領地へ戻る武士の一行が、街道を歩いています。()
- ② 百姓たちが決められた量の米を、俵に詰めています。()
- ③ さまざまな工夫された農具を使って、稲を脱穀しています。()
- ④ 海岸の近くに、綿花の畑が広がっています。()
- ⑤ 百姓がお金を払って、新しいくわを買っています。()
- ⑥ 旅人が手にした案内書を見せて、道を聞いています。()

ヒント ①→p.125、140 ②→p.136 ③→p.138 ④→p.139、147 ⑤→p.138、147 ⑥→p.152



私たちは、江戸時代とよばれる長く続いた時代に
来ています。ここでは、西日本の、ある街道沿いの農
村です。百姓の暮らしがうかがえる一方で、街
道にはさまざまな人々が行き交っています。



見方・考え方

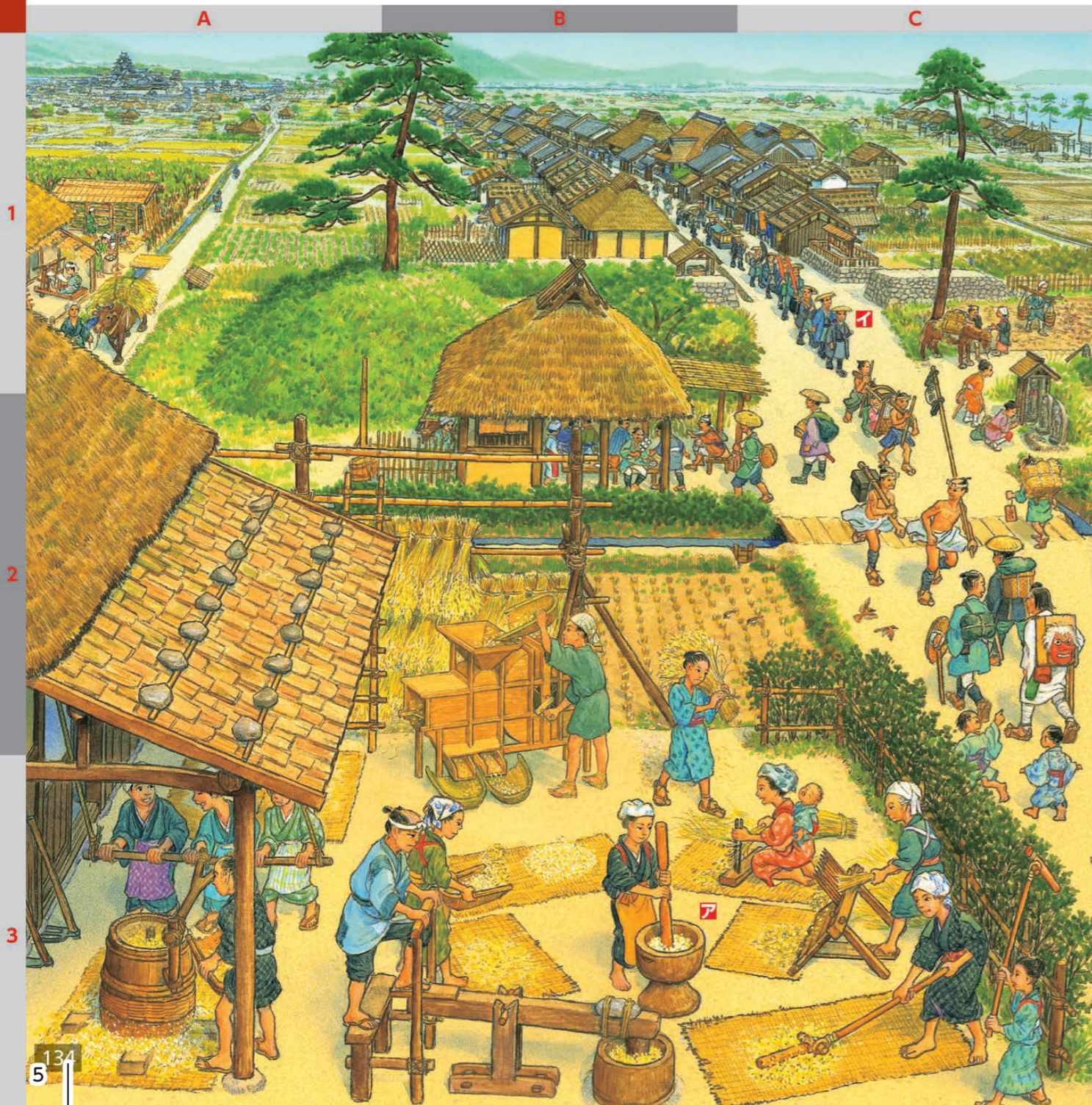
安土桃山時代から江戸時代に
移り変わって、どのような点に変
化しているのでしょうか。また、なぜそのよう
に変化したのでしょうか。例えば以下の点な
どに注目し、周りの人と話し合ってみましょう。

- ・街道を歩く人々の服装や持ち物
- ・場面**ア**のように人々が使う農具



対話

街道が整備されて、現在でも見られる
まち並みができているね。街道を歩く
人々はどんな仕事をしているんだろう。



原寸大

人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

時代の特色がわかる「タイムトラベル」

「タイムトラベル」では、イラストからその時代の特色をつかむための着眼点や学習活動を設けています。

「さくいんグリッド」

本文に掲載されている事象を地図帳の索引記号のように、記号を使って位置を確認できるようにしています。

「次の場面を探してみよう！」

本文に掲載されている、その時代の重要な場面を確認することで、時代の特色をつかむ問いの設定につなげることができます。

時代を概観する解説

イラストを見る際の着眼点を示し、時代を概観できるようにしています。また、現在との共通点や相違点に着目できるようにしています。

「見方・考え方」

前の時代との変化に気付くことで、時代の特色を考えられるようにしています。
「歴史的な見方・考え方」を働かせる場面であることを示しています。

タイムトラベル⑧ 江戸時代を眺めてみよう

(17～18世紀ごろのある場面)

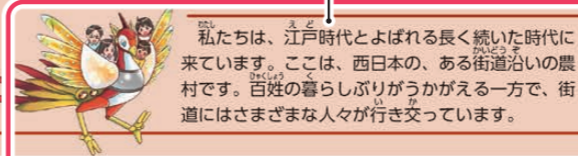
安土桃山時代 p.114～115

明治時代 p.184～185



次の場面を探してみよう！ 次の場面は、①～⑥のどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。

- ① 江戸から領地へ戻る武士の一行が、街道を歩いています。()
 - ② 百姓たちが決められた量の米を、俵に詰めています。()
 - ③ さまざまな工夫された農具を使って、稲を脱穀しています。()
 - ④ 海岸の近くに、綿花の畑が広がっています。()
 - ⑤ 百姓がお金を払って、新しいくわを買っています。()
 - ⑥ 旅人が手にした案内書を見せて、道を聞いています。()
- イラスト ①→p.125、140 ②→p.136 ③→p.138 ④→p.139、147 ⑤→p.138、147 ⑥→p.152



私たちは、江戸時代とよばれる長く続いた時代に来ています。ここでは、西日本の、ある街道沿いの農村です。百姓の暮らしがうかがえる一方で、街道にはさまざまな人々が行き交っています。

街道が整備されて、現在でも見られるまち並みができているね。街道を歩く人々はどんな仕事をしているんだろう。



見方・考え方
安土桃山時代から江戸時代に移り変わって、どのような点が変化しているのでしょうか。また、なぜそのような変化したのでしょうか。例えば以下の点などに注目し、周りの人と話し合ってみましょう。

- ・街道を歩く人々の服装や持ち物
- ・場面⑦のように人々が使う農具



人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

時代の特徴がわかる「タイムトラベル」

「タイムトラベル」のイラストは本文ページの学習と関連しています。各時代の政治・経済・文化の内容について、文章だけではイメージしづらいことも、イラストで視覚的に確認することで理解が深まるようにしています。



↑p.134-135

次の場面を探してみよう! 次の場面は、A~Fのどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。

- ① 江戸から領地へ戻る武士の一行が、街道を歩いています。()
- ② 百姓たちが決められた量の米を、俵に詰めています。()
- ③ さまざまな工夫された農具を使って、稲を脱穀しています。()
- ④ 海岸の近くに、綿花の畑が広がっています。()
- ⑤ 百姓がお金を払って、新しいくわを買っています。()
- ⑥ 旅人が手にした案内書を見せて、道を聞いています。()

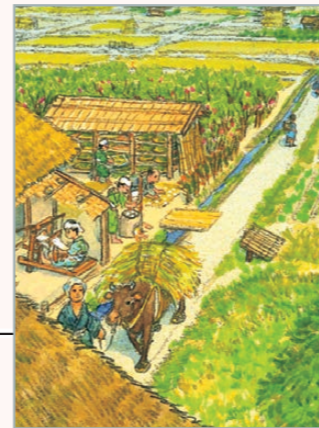
ヒント ①→p.125、140 ②→p.136 ③→p.138 ④→p.139、147 ⑤→p.138、147 ⑥→p.152

経済

工業の発展と変わる農村

18世紀になると、各地で、綿花や紅花・藍などの特産物が、商品作物として積極的につくられるようになり、幕府や藩もそれを支援しました。商品作物の生産者は、それらを買いつける商人(問屋)と結びつき、問屋から原料や道具などを借りて、家内で手工業による商品づくりを行うようになりました。これを問屋制(問屋)といいます。地方には、上方などの

↑p.147



参照記号

本文の学習で「タイムトラベル」の場面と関連する内容にはイラストの「さくいんグリッド」(本資料p.7-8)を示す赤色の参照記号を付けています。

一方、農民たちも、土地を深く耕することができる備中鍬や、楽に脱穀ができる千歯こきなどの農具を使用し、干籾や油かすなどの、より栄養価の高い飼料も使うようになり、生産の効率が大きく上がりました。この時期に、農業技術を記した農書が木版印刷によって

↑p.138



政治

生活をしていました。農民は、農地をもつ本百姓と、農地をもたない水呑百姓などに分かれていました。村の有力者は、名主(庄屋)・組頭・百姓代など村方三役という役目に就き、村の自治にあたりました。農民に課せられた主な税は、収穫した米の40~50%の年貢で、村が責任をもって納め、年貢は藩や幕府に納められ、武士の

↑p.136



「次の場面を探してみよう!」の確認

「次の場面を探してみよう!」(本資料p.7-8)で示された場面を本文で確認することで、時代の特徴をイラストと本文からつかめるようになっています。

文化

かきたてました。また、本も数多く印刷され始め、旅先での出来事や名所を描いた十返舎一九の『東海道中膝栗毛』は、旅の案内書として評判となりました。曲亭(滝沢)馬琴の『南総里見八犬伝』などの長編小説も多くの人々に読まれました。こうした印刷物や旅先での人々の交流によって、江戸の文化は地方にも伝わっていきました。

↑p.152



人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

時代の特色がわかる「タイムトラベル」

古代から現代まで主要な12の時代をそろえています。
各時代の政治・経済・文化を描いたイラストで時代の特色をつかめるようにしています。

縄文時代・弥生時代 (p.26-27)



奈良時代 (p.36-37)



平安時代 (p.52-53)



鎌倉時代 (p.64-65)



政治

たて穴住居(定住) 環濠集落(クニ)

経済

狩り 高床倉庫(稲作)

文化

縄文土器 まじない(青銅器)

労役 庸・調の運搬

官道の整備 口分田の耕作

国分寺 僧侶

貴族 碁盤の目状の都 農民と年貢

品物の取引

浄土信仰 年中行事

農村の自衛 武士の館

職人 水車(灌漑) 市

民への説法(鎌倉仏教)

室町時代 (p.90-91)



安土桃山時代 (p.114-115)



江戸時代 (p.134-135)



明治時代 (p.184-185)



政治

一揆 町衆の寄合

経済

日明貿易 馬借 明銭の流通 牛耕

文化

茶の湯・生け花・畳

検地 刀狩

城下町 ますの統一

南蛮人 天守

参勤交代 百姓と年貢

農具の発達 綿花栽培(商品作物) 貨幣の普及

識字率の高さ

徴兵令 演説会

鉄道輸送 製糸工場

学制 西洋建築の教会

大正～昭和初期 (p.236-237)



第二次世界大戦期 (p.250-251)



高度経済成長期 (p.276-277)



政治

労働争議 男子普通選挙

経済

工業の発展 都市交通 金融恐慌

文化

映画(大衆文化)

戦地への出征 国民学校

配給制 戦時下の交通 物資の献納

マスメディア(新聞社)

女性の選挙権・参政権

重化学工業と公害 集団就職 東海道新幹線の開通と東京オリンピックの開催

団地 テレビの普及

人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

世界の歴史がイメージできる「世界とのつながりを考えよう イラスト編」

NEW

「タイムトラベル」の世界版として「世界とのつながりを考えよう イラスト編」を新設しました。時代を象徴する場面を探すことで、世界史でも時代の特徴を視覚的に捉えられるようにしています。

↓p.168-169

世界とのつながりを
考えよう

～イラスト編②～

産業革命期のイギリス



都市の様子からつながりを考えよう

私たちは、19世紀後半のイギリスの工業が盛んな都市にきています。このころの日本は明治維新の直後で、欧米を見習った国づくりを進めていました。また、この時代のヨーロッパの生活が、今の私たちの生活に大きな影響を与えています。

主な関連事項と関連ページ

- イギリスの議会政治…p.162～163
- 産業革命…p.166～167
- 明治時代の生活文化…p.220～223

次の場面を探してみよう!

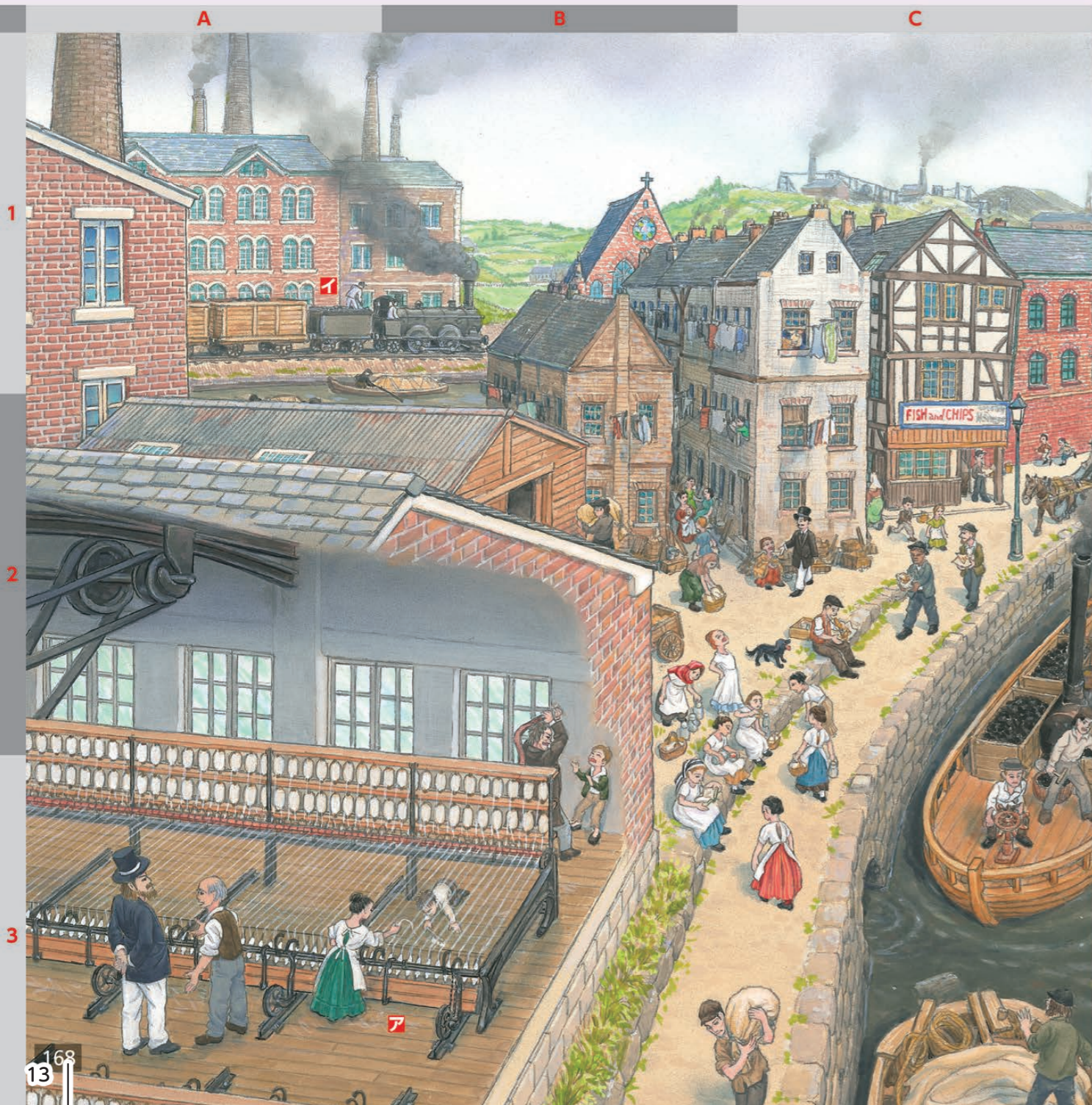
次の場面は、**ア**～**ウ**のどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。

- 工場で子どもや女性が働いています。() **ヒント** →p.167
- 議会で議員たちが話し合っています。() **ヒント** →p.162
- 蒸気機関車が貨物を運んでいます。() **ヒント** →p.166

見方・考え方 相互の関連を考えよう 対話

絵のなかから、今の私たちの身の回りと同じもの、今の私たちの生活や暮らしに影響を与えたと思うものは何か、見つけたものを周りの人と話し合ってみよう。その際、見つけるにあたって参考になった教科書の資料や本文の記述も、証拠として示そう。

川の水が黒いけれど、このころの環境は、どのような状態だったのかな。



原寸大

人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

世界の歴史がイメージできる「世界とのつながりを考えよう イラスト編」

NEW

時代を象徴する場面を描いたイラストから、日本との関連をつかむための解説や学習活動を設けています。

「さくいんグリッド」

「タイムトラベル」(本資料p.7-8)と同じように記号を使って本文に出てくる事象の位置を確認できるようにしています。

描かれている場面の解説と「主な関連事項と関連ページ」

都市の様子から日本への影響を考えられます。教科書本文とのおもな関連事項と関連ページを示しています。

「次の場面を探してみよう！」

「ヒント」で示す本文を見ながら、時代を象徴する重要な場面を探すことで、世界の歴史への理解が深まるようにしています。

「見方・考え方」

日本との関連や影響を与えたと思うものを探し、話し合う学習活動を設定しています。「歴史的な見方・考え方」を働かせる場面であることを示しています。

世界とのつながりを考えよう

～イラスト編①～

唐の都 長安



市場の様子からつながりを考えよう

私たちは、唐の都 長安、そのなかでもとてもにぎやかな市場に来ています。このころの日本は奈良時代で、市場の様子からも、日本に影響を与えたものを見ることができます。この絵のなかにも、日本とのつながりが分かるものがたくさん隠れています。

主な関連事項と関連ページ

唐の成立と遣唐使の派遣…p.40～41
平城京の建設…p.42
大陸の影響を受けた天平文化…p.44～49

次の場面を探してみよう!

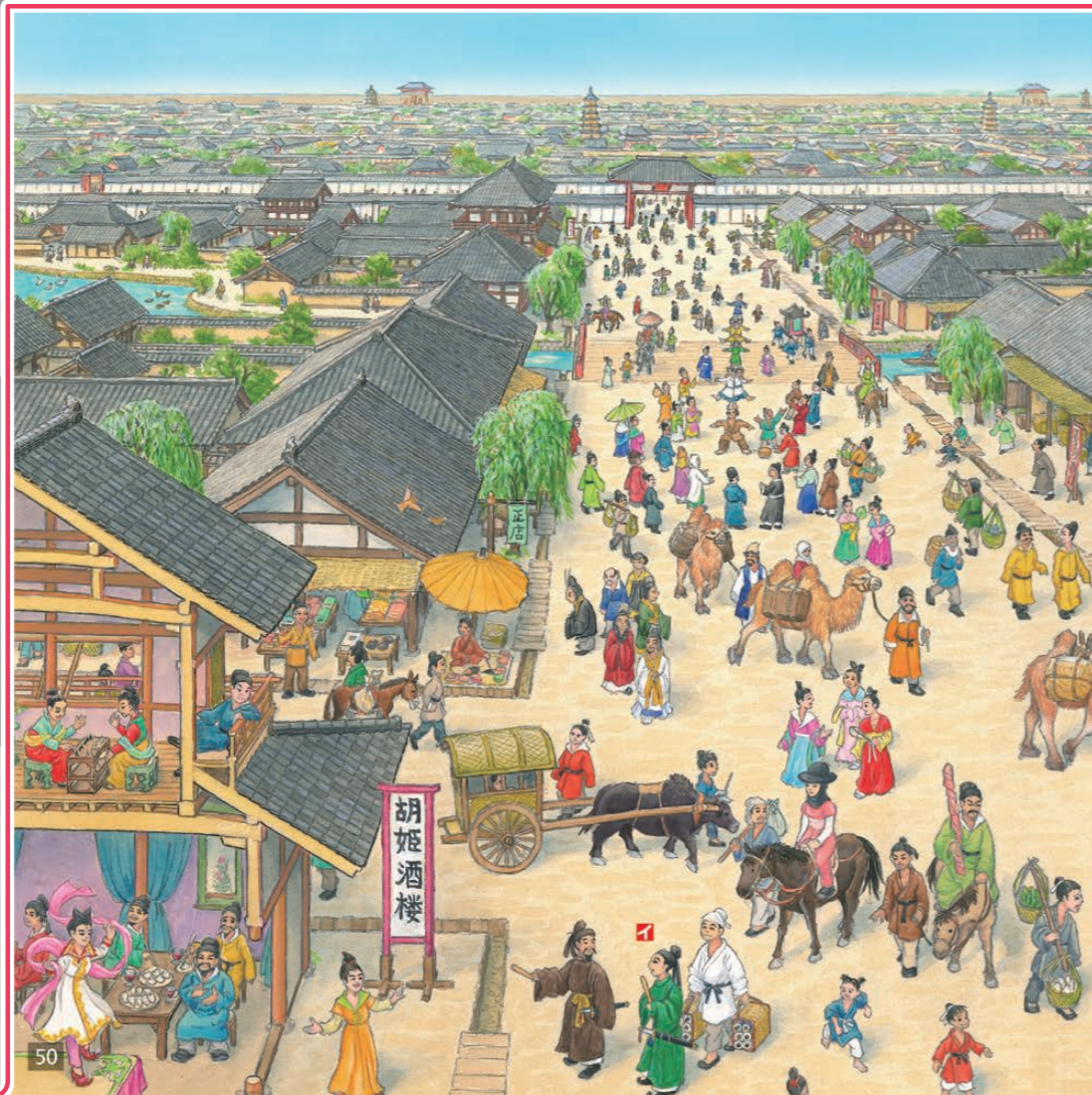
次の場面は、①～③のどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。

- ① 日本から来た遣唐使が、通りの様子におどろいています。() ヒント ④→p.41
- ② 西方から来た商品が売られています。() ヒント ⑤→p.44
- ③ 暮盤目状の町の向こうに皇帝のいる宮殿がみえます。() ヒント ⑥→p.45

見方・考え方 相互の関連を考えよう 対話

絵のなかから、日本と同じもの、日本と関連が深いもの、日本に影響を与えたと思うものは何かあるか、見つけたものを周りの人と話し合ってみよう。その際、見つけるにあたって参考になった教科書の資料や本文の記述も、証拠として示そう。

B3に看板があるね。どんな文字が使われているかな。



人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

世界の歴史がイメージできる「世界とのつながりを考えよう イラスト編」

「タイムトラベル」と見比べて、日本と世界の共通点や相違点を探ることで、相互の関連をつかめるようにしています。

世界とのつながりを考えよう **産業革命期のイギリス**

都市の様子からつながりを考えよう
 見た目は、19世紀後半のイギリスの工業が盛んな都市に似ています。この頃の日本は明治維新の途上で、欧米を模倣した国づくりを進めていました。また、この時代のヨーロッパの生活が、今の私たちの生活に大きな影響を与えています。

主な関連事項と関連ページ
 イギリスの産業革命 p.162~163
 産業革命 p.166~167
 明治時代の生活文化 p.220~223

次の場面を詳しく見よう
 次の場面は、図-1のどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。
 ① 工場で子どもや女性が働いている。 () p.167
 ② 船で輸送物が運ばれている。 () p.162
 ③ 長髪が流行している。 () p.166

見方・考え方 **相互の関連** を考えよう **対話**
 絵のなかから、今の私たちの身の回りと同じもの、今の私たちの生活や暮らしに影響を与えているものがあるか、見つけたものを周りの人と話し合ってみよう。その際、見つけたものについて参考になった絵、資料の裏面や本文の図表も、見逃さず読んでみよう。
 資料が複数ある場合は、どの絵も読んでみよう。

↑p.168-169

タイムトラベル **明治時代を眺めてみよう**
 (1880~90年代のある場面) 江戸時代 p.134~135
 大正~昭和前期 p.226~237

次の場面を詳しく見よう
 次の場面は、図-2のどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。
 ① 多くの職人や、農工が働いている。 ()
 ② 船で輸送物が運ばれている。 ()
 ③ 船のなかで、長髪が流行している。 ()
 ④ 船を動かす動力が、汽力機関である。 ()
 ⑤ 船のなかで、子どもや女性が働いている。 ()
 ⑥ 船のなかで、長髪が流行している。 ()
 ⑦ 船のなかで、長髪が流行している。 ()
 ⑧ 船のなかで、長髪が流行している。 ()
 ⑨ 船のなかで、長髪が流行している。 ()
 ⑩ 船のなかで、長髪が流行している。 ()

見方・考え方 **対話**
 江戸時代から明治時代に移り変わって、どのような変化があったのでしょうか。また、なぜそのような変化が起きたのでしょうか。見つけたものについて話し合ってみよう。
 ・建物の様子や人々の服装、道具の様子などについて話し合おう。

↑p.184-185

ポイント

「近代前半」の「学習を振り返ろう」では、「近代国家の建設」をキーワードに日本の明治時代と産業革命期のイギリスを見比べる学習活動を設定しています。日本がイギリスから受けた影響を見ることで、日本が欧米諸国に追いつこうと努力して近代化していった様子を確認できるようにしています。

見方・考え方

例えば **推移**

戦いの役割を担う人の移り変わりに着目しよう
 p.134~135「江戸時代」と見比べて、戦いの役割を担う人はどのように移り変わっているだろうか。

見方・考え方 巻頭 8

比較、相互の関連 近い時期のイギリスとの共通点に着目しよう
 p.168~169のイギリスの様子と見比べてたときの共通点は何だろうか。また、その共通点は、近代国家の建設とどのように関連しているだろうか。

↑p.225 「学習を振り返ろう」より

世界とのつながりを考えよう イラスト編 産業革命期のイギリス



国均一の料金で郵便が利用できる。うになりました。また、交通の分野では、翌72年に新橋(東京都)~横浜間、続いて神戸~大阪~京都間に鉄道が開通しました。鉄道は各地を結びつけ、多くの人や物資を運びました。その結果、都市も農村も大きく変化しました。

↑p.188

「文明開化」の下で
 「文明開化」が進みました。そこでは、断髪、洋服を着て靴を履くなどの変化がみられ、牛鍋などの西洋料理が流行しました。街の様子も変化し、ランプが使われて夜も明るくなり、東京を中心に、レンガづくりの建物が登場しました。また、1872年に暦が太陰暦から

↑p.190



タイムトラベル⑨ 明治時代を眺めてみよう

人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

世界が一望できる「世界とのつながりを考えよう 地図編」

地図とイラストによるイラスト世界地図「世界とのつながりを考えよう 地図編」を設置して、日本の歴史を世界の中に位置づけて見るができるようにしています。

↓p.44-45

世界とのつながりを考えよう

～地図編①～

8世紀ごろの世界

やってみよう

1. 地図のなかから、下に挙げたA～Cを探してみよう。また、その人々がどの宗教を信仰しているか、考えてみよう。



- A. 皇帝に冠を授ける教皇 ヒント→p.106
- B. メッカに向かって礼拝する人 ヒント→p.25
- C. 海を渡る僧侶 ヒント→p.48

見方・考え方

地図のなかから、このコップをつくっている人と、コップを持つ人を合わせて3人以上探して、ペルシャから日本まで地図をたどってみよう。

→1 瑠璃杯 西アジアのペルシャでつくられたといわれています。
[正倉院宝物]

小地公



(全高11.2cm)

コップは日本に来るまでどのような人々を経由してきたのかな。



↑2 8世紀ごろ(奈良時代のころ)の世界 世界とのつながり

地図をよく見るためのキーワード

- ・仏教→p.24
- ・キリスト教・イスラム教→p.25
- ・シルクロード→p.21
- ・唐の都 長安→p.42, 50-51
- ・正倉院→p.47
- ・遣唐使→
- ・鑑真→p.48
- ・聖武天皇→p.47

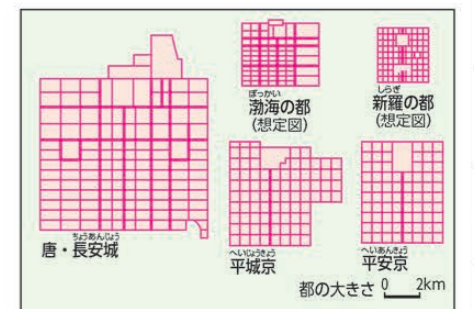
- ツンドラ
- 針葉樹林
- 広葉樹林
- 地中海性樹林
- 草原
- 砂漠
- 熱帯雨林
- 山岳

- シルクロード
- シルクロードにつながる道
- 草原の道
- 海の道



「タイムトラベル」同様、地図帳の索引記号のように記号を使って位置を確認できるようにしています。

関係が安定するなかで、漢字を通じた共通の文化が広がりました。
さらに8世紀には、大陸の西側でイスラム教徒の朝が大帝国を築き、唐とも接しました。貿易が盛んな都市で生まれたイスラム教の商人は、砂漠や海で長い距離を移動するための知識や技術にたけており、唐にも訪れたほか、分裂したローマ帝国とも貿易していました。そのため、ユーラシア大陸を東西に文物が行き交い、東の長安と西のバグダッドが国際都市として栄えました。



↑3 唐と各国の都の比較

4 大陸の影響を受けた天平文化

3節の問い なぜ、日本の古代国家は、中国にならった国づくりを行ったのだろうか。



学習課題

奈良時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

唐中心の国際関係と栄える東西交流

日本の国づくりに際しては、唐を手本とするため、7世紀以降、盛んに遣唐使が派遣されました。同じく、東アジアの各国が唐を訪れて、大陸の東側に大帝国を築いた唐の政治のしくみや進んだ文化を学びとるようになりました。こうして8世紀の東アジアでは、唐を中心とした国際

人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図

世界が一望できる「世界とのつながりを考えよう 地図編」

同じ時代の「世界とのつながりを考えよう イラスト編」と見比べることで、物や文化がどのような経路で日本に運ばれてきたのかが確認できます。



↑p.44-45

関係が安定するなかで、漢字を通じた共通の文化が広がりました。さらに8世紀には、大陸の西側でイスラム教徒の王朝が大帝国を築き、唐とも接しました。貿易が盛んな都市で生まれたイスラム教

中国から伝わった漢字が、日本を含む東アジア共通の文化になったことがわかります。

ポイント

このページでは、西アジアでつくられたといわれるコップ(瑠璃杯)がシルクロードを通り、長安を経由して日本に伝来したことが、地図から読み取れます。

ペルシヤ



シルクロード



長安



日本



「世界とのつながりを考えよう」掲載ページ一覧(全6か所)

ページ	タイトル
p.44-45	8世紀ごろの世界～地図編①～
p.50-51	唐の都 長安～イラスト編①～ NEW
p.78-79	13世紀ごろの世界～地図編②～ NEW
p.110-111	16世紀初めごろの世界～地図編③～
p.168-169	産業革命期のイギリス～イラスト編②～ NEW
p.172-173	19世紀ごろの世界～地図編④～



↑p.50-51



多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

さまざまな視点から歴史を見ることができる「地域史」・「人物史」

特設ページ「歴史を探ろう」

当時の社会を地域の視点から見ることで、日本の歴史を多面的に捉えられるようにしています。

本文で学んだことを具体例を通じて深める「学習テーマ」

歴史を探る動機となる「疑問」

本文で学んだことと地域を結びつける「関連ページ」

歴史を探ろう 「絹の道」と日本の製糸業

～幕末八王子の生糸産業から近代日本の製糸業へ～

1 生糸の生産・取り引きで栄えた幕末 八王子

幕末の生糸産業は、八王子を中心に栄えました。八王子は、江戸時代から生糸の生産・取り引きの中心地であり、多くの生糸商人が活躍していました。特に八王子の生糸の商人は、全国的に有名でした。開港場にもかわからず、種水には、西洋風の建物が見つかりました。開港場によって生糸の輸出が始まると、各地で製糸ブームが起こりました。八王子の生糸の生産・取り引きも増え、「絹の道」は生糸を積んだ荷車でにぎわいました。生糸商人や製糸業者は利益を得るだけでなく、欧米の文化や思想に触れる機会も得ました。やがて鉄道が開通すると、「絹の道」と共に栄えていた商人は没落しますが、生糸の生産は増え続けました。

現在、製糸業者は業衰したものの、八王子では絹織物を主とした伝統ブランドを受け継がれており、「八王子ネクタイ」などが有名です。また、「絹の道」の一部は文化財として「歴史の道 百選」に指定され、現在でも当時のおかげを残す街並みを歩くことができます。

2 日本の製糸業の発展

幕末の貿易開港場以来、生糸は日本の主要な輸出品でした。官督の官製製糸場などを模範として、1870年代の後半には群馬・長野・山梨県を中心に、水力や蒸気機関を利用した機械で生産する製糸場が次々に設立されました。1882(明治15)年に日本銀行が設立されると、生産規模を拡大するために必要な資金が供給されるようになり、製糸業界も活況を呈しました。また、農家にとって、原料となる繭の供給は重要な収入源になりました。製糸業や紡績業など、軽工業中心の産業革命が進展した日清戦争前後の時期には、民間の鉄道会社の設立ブームも起こりました。日本では、産業革命が始まる以前から鉄道が開業していましたが、機械による生糸の輸送の利便性により、各地の産業の機械化を促進していったという相乗効果がありました。機械による生糸の生産は、作業の効率化によって生産量が増えるだけでなく、製品の品質を飛躍的に向上させ、国際競争力も高まりました。日本の生糸や絹織物の輸出先は欧米諸国であり、特にアメリカの経済発展に伴って、アメリカへの輸出が中心となっていきました。生糸の糸には「RAW SILK(生糸)」などの表示とともに、生産地名や、大相模など日本を想起させる輪が描かれたラベルが巻かれていました。

外国人が見た幕末の八王子

幕末と生糸の産業立地に興味のある人なら、八王子のその頃の風景を想像することはできません。幕末の生糸産業を維持する木がたにも無造作に、生けがけのように建てられているの目を留めてください。

【「アトキス集」幕末日本の風景と人びとより、一部要約・改題】

近代日本の産業のいっしんを築いた実業家

埼玉県の農林出身で、明治維新後に大蔵省(現在の財務省)の官僚となった渋沢は、政府の殖産興業政策の柱である近代製糸場の設立にも関わりました。大蔵省を辞職した後は、日本初の銀行を設立し、これを拠点として、秩父鉄道や日本郵船、大船政、東京貯蓄など多くの企業の創設に関わり、日本の経済発展の推進者として、昭和初期まで活躍しました。殖産興業の発展(→p.245)や、アメリカなどの民間外交にも貢献しました。

↑p.216-217 「疑問」にわかりやすく答える「解説文」

歴史を探ろう 掲載ページ一覧 (全11テーマ)

ページ	タイトル
p.82-83	東アジアに開かれた窓口 博多
p.132-133	琉球とアイヌ民族の暮らし
p.142-143	昆布ロードと北前船
p.154-155	世界有数の百万都市 江戸
p.192-193	世界に開かれた港 横浜
p.198-199	移住と開拓が進む北海道

ページ	タイトル
p.216-217	「絹の道」と日本の製糸業
p.246-247	発展する産業都市 大阪・神戸
p.260-261	長野県から見る満州移民
p.268-269	戦場となった沖縄
p.286-287	日本の領土画定と近隣諸国

コラム「地域史」

本文と関連付けながら、地域から日本の歴史を捉え直しています。

地域史 鉄砲づくりを支えた堺と国友

鉄砲づくりの技術は、種子島から各地に伝わりました。なかでも、将軍の御用で町屋の職人が、質によって鉄砲づくりの資金が豊富にあった堺(大阪府)と、刀の原料となる鉄が近くで豊富にとれ、古くから刀鍛冶がいた国友(滋賀県)は、全国有数の鉄砲の生産地となりました。

↓国友の鉄砲(上)と堺の鉄砲(下)

地域史 財政改革に成功した米沢藩

かつて120万石もの石高があった上杉氏は、治世が藩主となったときには15万石と減っていました。家臣を減らさなかったため、藩に財政難が起きました。そこで米沢藩は、大規模な改革を行って藩政の刷新を図りました。1747年の藩政刷新で、米沢藩は、幕府を倒すことと収入を増やしました。こうした改革の功績により、藩の財政は改善し、藩政の改革の先駆けとなりました。また米沢に備え、米の貯蔵や、食用として藩の食糧を確保に貢献しました。

↓上杉治政(備忘録)

地域史 掲載ページ一覧 (全16テーマ)

ページ	テーマ
p.33	上野三碑にみる渡来人の影響
p.55	蝦夷と東北の支配
p.74	仏教の隆盛を伝える「鎌倉大仏」
p.80	北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来
p.100	各地に広がった文化
p.112	鉄砲づくりを支えた堺と国友
p.113	世界の銀を支えた石見銀山
p.125	鳥取藩の参勤交代

地域史 掲載ページ一覧 (全16テーマ)

ページ	テーマ
p.140	日光東照宮と街道の発達
p.148	財政改革に成功した米沢藩
p.180	函館と那覇のペリー来航
p.189	士族の救済事業となった安積開拓
p.201	多摩地方の自由民権運動
p.215	近代化を支えた石炭と八幡製鉄所
p.215	京都の近代産業育成と伝統保護 NEW
p.287	小笠原諸島の返還

「人物コラム」 「人物さくいん」

為政者だけでなく、地域で活躍した人など、さまざまな立場の人々を「人物コラム」で紹介しています。巻末には、おもな人物のさくいんを掲載しています。(全311名)

天川恵三郎

1864～1934

言語で戦ったアイヌ

天川恵三郎は、アイヌの民族活動家です。1899年、札幌にあった陸軍第七師団の旭川への移転決定に伴い、旭川の近辺にあったアイヌの土地を取り上げ、夫盛に強制移住させる計画が明らかになりました。日本語のできる石狩在住の天川(旭川の近辺のアイヌ)によれば裁判所に訴え、上京して大隈重信(→p.201)などと会い、協力を求めました。北海道庁長官は移転を中止し、問題はいったん解決しましたが、その後もアイヌの土地所有問題は繰り返され、

←p.197

「人物コラム」一覧(全49名)

*太字: 新しく追加された人物

章(時代)	人物
第2章(古代)	孔子、シャカ、イエス、ムハンマド、鑑真、菅原道真、最澄、空海
第3章(中世)	平将門、源義経、足利義満、雪舟
第4章(近世)	千利休、天草四郎、徳川綱吉、高田屋嘉兵衛、松尾芭蕉、 伊能忠敬
第5章(近代前)	ワシントン、ナポレオン、マルクス、ピスマルク、高杉晋作、大浦慶、吉田松陰、福沢諭吉、江藤新平、西郷隆盛、大久保利通、 天川恵三郎 、島義勇、伊藤博文、渋沢栄一、正岡子規
第6章(近代後)	ウィルソン、ガンディー、原敬、与謝野晶子、平塚らいてう、山川菊栄、宮沢賢治、山口淑子、蔭介石、毛沢東、斎藤隆夫
第7章(現代)	吉田茂、湯川秀樹、 長谷川町子 、 中村哲

長谷川町子

1920～92

日本初のプロ女性漫画家

佐賀県で生まれ、「のらくろ」で有名な由利水沼に弟子入りしました。15歳で漫画家デビューし、19歳で新聞連載をもつなど、人気漫画家になりました。漫画「サザエさん」は1946年から約28年間続きました。テレビでアニメーション化され、今も多くの人々に愛されています。1992年には国民栄誉賞を受賞しました。現在、漫画家で唯一の受賞者です。

↓「サザエさん」原作は4コマ漫画です。

↑p.297

多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

中央の歴史だけでなく地方の歴史も重視した「琉球とアイヌ民族」

琉球とアイヌ民族の歴史を古代から現代まで一貫して取り上げています。

豊富な資料や因果関係のわかる本文で丁寧に解説しているため、それぞれの文化や周辺地域との関わりについて深く理解できます。

琉球とアイヌ民族に関する地図

琉球・アイヌ民族の歴史を地図で確認できるようにしています。

4 琉球とアイヌ民族が つながる交易

東アジアをつなぐ琉球

琉球(沖縄県)の島々では、10世紀ごろに農耕が始まりました。14世紀半ばには北山・中山・南山の3つの勢力が並び立ち、15世紀には中山の王である尚氏によって統一され、首里(現 那覇市)を都とした**琉球王国**が成立しました。奄美大島(鹿児島県)から南部島嶼に及ぶ地域がその領域でした。琉球は14世紀末に明との朝貢貿易を始め、さらに日本・朝鮮・東南アジアの国々とも盛んに交易を行いました。琉球は、琉球産の硫黄や日本の刀・屏風、東南アジア産の珍しい香料や蘇木(染料)などを明にもっていき、その返礼として得た絹織物・陶磁器などを諸国に販売しました。中国・東南アジアや日本の坊津(鹿児島県)・博多(福岡県)・堺(大阪府)の商人をはじめとした人たちも、アジア各地の交易品の集まる琉球の那覇港へやって来ました。こうした中継貿易によって琉球王国は繁栄し、独自の文化を築きました。しかし、16世紀半ばになると、明の商人が国による通交と貿易の規制を破って東南アジアや日本へ盛んに進出するようになり、ポルトガル商人などの活動も活発になりました。その影響を受け、16世紀後半になると、琉球船の活動は衰えていきました。

アイヌ民族と交易

日本列島の北端では、狩りや漁を中心とした生活が長く続いており、13世紀までには**アイヌ文化**が成立しました。北海道の**アイヌ民族**は、樺太や千島列島に出入り、アムール川流域で活発に交易・交流していました。また、津軽半島(青森県)の十三層は、アイヌ民族と和入(本州の人々)の交易地となり、北の日本海交通の中心でした。14世紀ごろには、領主**安藤(安東)氏**の下で繁栄し、北方産の鮭や昆布・毛皮などが日本海を渡って京都などへ運ばれていきました。やがて和人は、北海道の南部へ進出し、鮭とよばれる根拠地をつくり、アイヌ民族と交易しました。15世紀半ば、和人の進出に圧迫されたアイヌ民族は、コシャマインを指導者として、和人と衝突を起こしました。この衝突から80年ほど争乱が続くなかで、和人の居住地は限定されていきました。その後しばらくは、アイヌ民族と和人の交易は安定したものとなりました。

p.88-89

琉球とアイヌ民族が繁栄した背景がわかる本文

繁栄した背景には、琉球王国は日本・中国・東南アジアを相手に中継貿易が、アイヌ民族は和人を相手に北方産の鮭や昆布・毛皮などの交易があったことがわかります。

琉球とアイヌ民族の歴史 掲載ページ一覧

時代	ページ	タイトル	種類
古代	p.31	北海道・南西諸島の歩み	年表
中世	p.80	北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来	コラム 地域史
中世	p.88-89	琉球とアイヌ民族がつながる交易	見開き全体
近世	p.130-131	琉球王国とアイヌ民族への支配	見開き全体
近世	p.132-133	琉球とアイヌ民族の暮らし	特設 歴史を探ろう
近代前半	p.180	函館と那覇のペリー来航	コラム 地域史

4 琉球王国とアイヌ 民族への支配

琉球王国とアイヌ民族は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのだろうか。

琉球への窓口

徳川家康は、朝鮮出兵で断絶した明との関係を改善するため、琉球王国(沖縄県)に明との仲介役を期待しました。薩摩藩(鹿児島県)が交渉にあたりましたが、琉球が仲介を断ったことを理由に1609年に出兵し、薩摩藩は琉球王国を支配しました。そして、機地を行って百島から年貢米や布を取り立てるなど、厳しく監督しました。従来より琉球は、明に絹織物、明の文化や産物、海外情報を積極的に取り入れていました。それらは幕府や薩摩藩にとっても貴重だったため、幕府や薩摩藩の管理の下で、明や清への朝貢を続けることが認められました。琉球から中国へは、薩摩藩を通して入手した、鹿夷地(北海道)や日本各地の昆布・ふかひれ・なまこなどの海産物が輸出され、中国から琉球へは、絹織物・医薬品・茶・陶磁器が輸入されました。また、琉球では特産の黒砂糖や漢方薬・染料に使われるウコンが盛んにつくられ、琉球はそれらを薩摩藩の商人を通じて大阪で売り、その利益を中国との貿易資金にしました。琉球からは、将軍が代わるごとに慶賀使とよばれる就任祝いの使節と、琉球王が代わるごとに謝恩使とよばれる感謝を示す使節が江戸に派遣されました。薩摩藩は、琉球の使節が着る中国風の衣裳を

p.130-131

解説

知識定着を図るための一助として、用語の「解説」を全47か所に設置しています。

時代	ページ	タイトル	種類
近代前半	p.196-197	沖縄・北海道と近代化の波	見開き全体
近代前半	p.198-199	移住と開拓が進む北海道	特設 歴史を探ろう
近代後半	p.245	見直される伝承や文化	本文(一部)
近代後半	p.268-269	戦場となった沖縄	特設 歴史を探ろう
現代	p.286-287	日本の領土画定と近隣諸国	特設 歴史を探ろう
現代	p.289	現在に残る沖縄の基地問題	コラム 未来に向けて
現代	p.301	日本における先住民族	コラム 未来に向けて

より強調して行進させ、幕府と薩摩藩の権威が遠く琉球まで及んでいることを国内の人々に印象づけました。

蝦夷地への窓口

蝦夷地の多くの土地にはアイヌ民族が暮らし、西部の渡島半島には松前藩の和入の住む和入地がありました。アイヌ民族は、漁や狩りを行ってにしん・鮭などの海産物や毛皮などを渡島半島や東北地方まで運び、和入と、米・木綿・鉄製品などと交換していました。また、彼らは千島列島・樺太・中国東北部の人々とも交易していました。松前藩は、耕地が乏しく冷涼な気候で米がとれなかったことから、年貢米による収入の代わりにアイヌ民族と交易し、その利益を独占する権利を幕府から与えられました。

交易をめぐる衝突

松前藩の武士は、アイヌ民族の住む地へ行き交易を行っていました。しかし、品物を交換する際の比率がアイヌ民族にとって不利なものになると、松前藩への不満が高まりました。アイヌ民族は、貿易のあり方をめぐって松前藩と対立し、1669年にシャクシャインを中心に立ち上がって戦いました。しかし、幕府の支援を受けた松前藩に敗れ、その結果、松前藩が交易の主権を握るようになりました。18世紀になると松前藩の武士は、海産物の交易を大商人に譲り負わせ、後には多くのアイヌ民族が漁場に働き手として雇い出されることになりました。

p.158-159

多面的・多角的に日本の歴史を捉えるさまざまな工夫

政治史だけでなく伝統文化への関心を高める「文化史」

文化史のページでは、各時代の代表的な文化を大きな図版で紹介し、**伝統文化への関心を高められるようにしています。**

本文やタイトルから**文化のおもな担い手や特色**がわかるようにすることで、**その時代の文化の特色**を捉えやすくしています。

文化史 掲載ページ一覧(全10か所)

ページ	タイトル
p.44-49	大陸の影響を受けた天平文化
p.56-59	唐風から日本風へ変わる文化(国風文化)
p.72-75	武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化
p.98-101	庶民に広がる室町文化
p.120-123	戦国大名と豪商が担った桃山文化
p.144-145	上方で栄えた町人の元禄文化
p.150-153	江戸の庶民が担った化政文化
p.220-223	欧米の影響を受けた近代文化
p.242-245	近代都市に現れた大衆文化
p.294-297	大衆化・多様化する戦後の文化

文化の特色がわかるタイトル

タイトルから、文化のおもな担い手や特色がわかるように工夫しています。

文化が生まれた背景がわかる本文

化政文化が生まれた背景には、社会の安定と経済の発達により豊かになった庶民の存在があったことがわかります。



↑ **伊勢参り** 庶民の自由な旅行は原則禁止されていましたが、寺社への参詣という名目で各地をめぐる旅をすることができました。なかでも伊勢神宮は一生に一度は行きたい庶民の憧れでした。この絵には、60年に一度しかない、とてもご利益のある「おかげ年」の様子が描かれていて、詣でる人でとてもにぎわっていることがわかります。【歌川(安藤)広重作「伊勢神宮 宮川の渡し」神奈川県立歴史博物館蔵】

どのような人がお参りに来ているかな。



↑ **歌舞伎の劇場** 常設の芝居小屋が建てられ、質を高めるさまざまな工夫と演出が行われたこと歌舞伎に対する人気はますます高まりました。観客は、一日中、飲食や会話をしながら歌舞伎を楽しみました。【三代目歌川豊国作「寄江戸絵巻」東京都 江戸東京博物館蔵】



← **江戸の本屋の様子** 本屋では、浮世絵や長編小説などの多くの出版物が書棚に並び、ベストセラーも生まれました。安い値段で本を買す店も増え、庶民に至るまで広く読まれるようになりました。【京都外国語大学付属図書館蔵】



→ **東洲斎写楽が描いた歌舞伎の役者絵**【東京国立博物館蔵】

江戸っ子を夢中にさせた娯楽と浮世絵



↑ **相撲の取り組み** 相撲は、初め朝廷の年中行事でしたが、江戸時代になると、大名が支援するお抱えの力士たちを競わせるようになりました。その後、興行が定期的に開催されることで、庶民の娯楽として人気を得ました。相撲を職業とする人々も現れ、信濃(長野県)出身で松江藩(島根県)お抱えの雷電など、人気力士も誕生しました。【歌川(安藤)広重作「東都両国回向院境内相撲の図」】

歴史プラス 江戸の人々の盛り場となった火除地

江戸は木造家屋が密集し、火災が発生すると被害もすぐに拡大しました。幕府は火災の拡大を防ぐため、火除地とよばれる、建物を設けない広場を町のあちこちに置きました。特に橋は避難ルートとして重要な場所なので、橋のもとには大きな広場ができました。広場には、仮設の小屋が建てられて興行などが開催され、飲食や物の売買ができる繁華街になりました。

↓ **両国橋で行われた花火大会**【葛飾北斎作「江戸両国橋夕花火之図」神奈川県立歴史博物館蔵】



3 江戸の庶民が担った化政文化

5節の問い なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。

幕府は、貨幣に言まれる金・銀の量を減らすことで、貨幣の量を増やしていました。

狂歌 白河の清きに染も住みかねて
 ものこりの田沼恋しき
川柳 これ小判たつた一睨いてくれろ
 孝行のしたいたしに親はなし
俳諧 春の海ひねもすのたりのたりかな
 菜の花や月車に日は西に
 行く春や重たき夢の抱きころ
 われときて遊べや親のいはずめ
 雪とけて村いっばいの子どもかな
 小松一茶

【白河】は白河藩(福島県)の藩主であった松平定徳を、「田沼」は田沼意次のことを指しています。

江戸時代後半には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

庶民による化政文化

田沼意次による、経済の中心を江戸に移す政策に伴い、文化の中心も上方から江戸に移りました。このころ、貨幣の改鑄によって多くのお金が回り、大飢饉も起こらなかったため、裕福な町人だけではなく庶民も、手にしたお金で娯楽を楽しむようになりました。19世紀初めの文化・文政期を中心に花開いた、江戸の庶民による文化を化政文化といいます。

歌舞伎はさらに人気を集め、落語を楽しむ寄席や相撲が庶民にも広く親しまれました。また、幕府の政治や庶民の生活を風刺してよむ川柳や狂歌が流行し、俳諧では情景を巧みに表現した与謝蕪村や農民の感情をくみとった小林一茶らが評判を得ました。

印刷技術の発達を背景に、浮世絵のなかに錦絵とよばれる多色刷りの版画が登場し、歌舞伎の人気役者を描いた東洲斎写楽や美人画を描いた喜多川歌麿らが活躍しました。町人だけでなく、生活にゆ

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

「章扉」・「タイムトラベル」

導入資料

「章扉」には、その時代を象徴する資料を掲載しています。「タイムトラベル」のイラストでは時代の特徴を表す場面を描いています。



p.105



p.134-135

QRコンテンツではタイムトラベルの「次の場面を探してみよう！」で設定している、時代の特徴を表す場面を表示することができます。



QRコンテンツ「タイムトラベル」

NEW

小学校の学習事項や前の単元の学習を振り返る「章扉」を設置しています。時代を象徴する資料をもとに単元を見通し活動ができるようにしています。

導入の「章扉」・「タイムトラベル」を活用し、見通しを立てて学習を進めていくことで、

「主体的な学び」を実現できるようにしています。

各見開きでも見通し・振り返り学習がしやすい紙面構成になっています。各見開きの学習内容は、「章・節の問い」を受ける形で「学習課題」を設置し、展開しています。

見開き 知・技 思・判・表

導入資料

見開きの学習内容の核心をつき、かつ、生徒に「なぜ」を抱かせる資料を掲載しています。

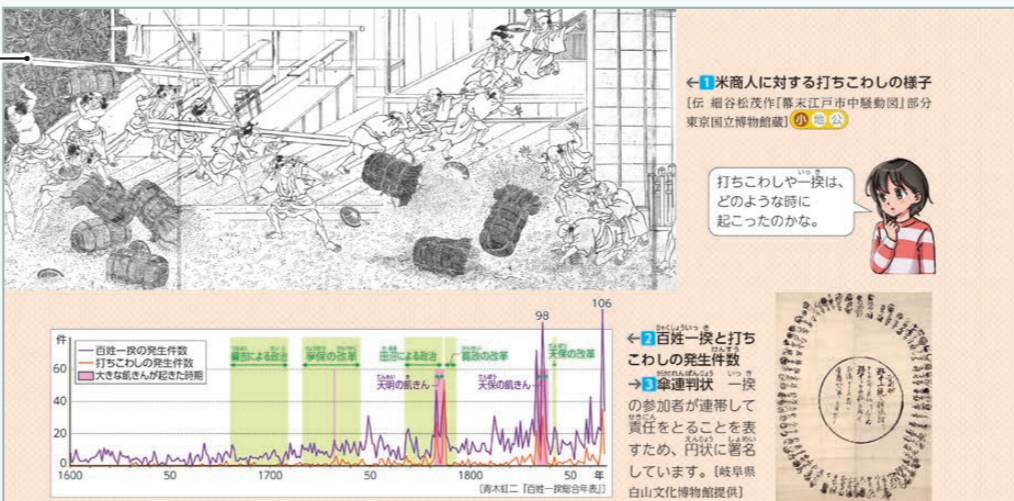
学習課題

見開きの学習でおさえるべき目標を示しています。本時の学習内容を見通す問いです。

本文

背景や因果関係まで丁寧に記述しています。

p.148-149



2 繰り返される要求と改革

「節の問い」なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。

地域史 財政改革に成功した米沢藩

かつて120万石もの石高があった上杉氏は、治世が満ちたときには15万石となっていたが、家臣を減らさなかったため、常に財政難に苦しんでいた。

そこで治世は、大規模な節減を行って桑や漆などの商品作物（p.147）の栽培を奨励した。さらに、織物業を導入して藩内の産業を盛んにし、江戸で商品を販売することで収入を増やした。こうした産業の発達や換約により、藩の財政は改善し、諸藩の改革の先駆けとなりました。

また飢饉に備え、米の貯蔵を、費用として藩の歳入に充当した。

→ 上杉治政(山)

(1751~1822)「なぜせば成るなせば成らぬ何事も成らぬは人のなさぬ業にけり」という言葉を残しています。

【上杉治政(山)山形県 米沢市上杉博物館蔵】

148 小学校・地理・公民・他教科との関連

百姓の要求と財政難に対して、幕府はどのような対応を行ったのだろうか。

百姓一揆と打ちこわし

百姓は、天災などの被害で年貢が納められないとき、年貢を減らしてくれるように領主に要求しました。また、不正を行う役人の交代を要求することもありました。領主側が訴えを受け入れることもありましたが、訴えが退けられると、百姓は一揆を起こし(百姓一揆)、城下へ押し寄せました。やがて幕末のころになると、百姓一揆は暴力を伴うようになりました。都市でも、米を買い占めた商人に対して、貧しい人々が打ちこわしを起しました。これらの背景には、貨幣経済の発達で貧富の差が生まれ、社会の基本である身分制が揺らいだ点がありました。幕府は身分の秩序を引き締める法令を出して、体制の維持を図りました。

18世紀後半に老中となった田沼意次は、年貢だけに頼る従来の政策を転換し、発展してきた商業に重点を置いた政策で、財政を立て直しを図りました。

田沼は、商品の流通を江戸へと集め、商工業者たちの株仲間(株)の営業権を認め税を納めさせました。また、長崎から銅や銀物とよばれる海産物を盛んに輸出して金・銀の輸入し、新たな通貨(南錠二朱銀)で金と銀の取り引きをしやすくし、商業の活性化を促す

【田沼意次(小)】

節の問い NEW

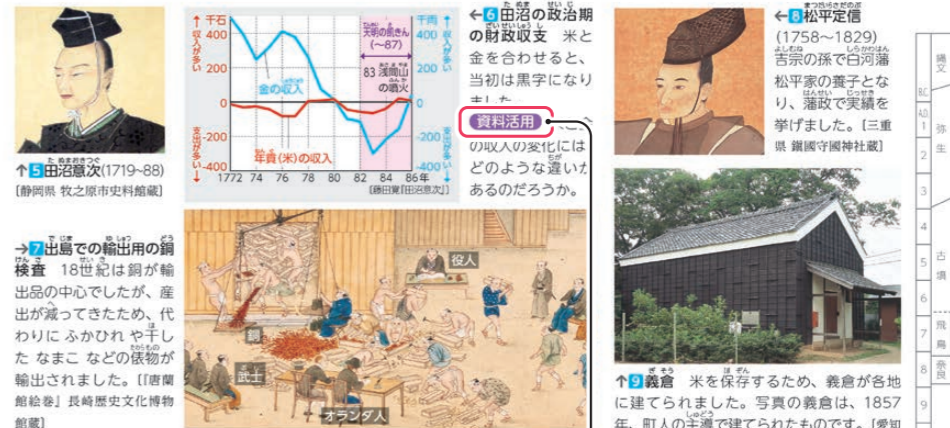
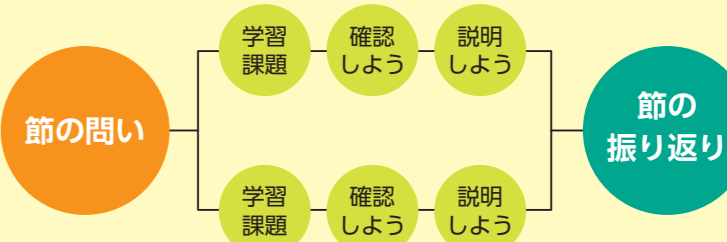
「節の問い」を、各ページのタイトル下にも掲載しています。「単元を貫く問い」である「節の問い」を常に意識して学習に取り組めるようにしています。

ポイント

「節の問い」と見開きの「問い」関係イメージ

各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつかんだ学習内容の積み重ねが、「節の問い」の追究につながるようになっています。

→ 「節の問い」と各見開きの「問い(学習課題・確認しよう・説明しよう)」の関係イメージ



ことでの取入の拡大に努めました。さらに干拓工事や蝦夷地の開拓にも乗り出しました。しかし、幕府中心の経済政策や賄賂の横行への批判が高まり、そのなかで、東北地方の冷害や浅間山の噴火などによる天明の飢きんで、百姓一揆や打ちこわしが数多く起こるようになったため、田沼はその責任をとり、老中を退きました。

松平定信の政治 田沼のあとに老中となった松平定信は、徳川吉宗の政治を理想として質素・倹約を掲げ、荒れた農村と幕府の財政を立て直しや都市での飢きん対策に取り組みました。江戸などの都市に出稼ぎに来ていた者を村に帰し、商品作物の栽培を制限して米などの穀物の栽培を奨励したほか、飢きんに備えて米を蓄えさせました。江戸では旗本や御家人の生活難を救うため、町人からの借金を帳消しにしました。また、秩序の乱れを正して幕府の権威を高めるため、庶民が読む出版物の内容を取り締まり、さらに幕府の学校で朱子学以外の儒学を禁止して、試験による人材登用も進めました。軽犯罪者の更生のための入居寄場もつくりました。定信が進めた政策は、寛政の改革とよばれています。改革の厳しきへの批判もありましたが、定信が老中を辞任したあとも、19世紀初めまで幕府の基本政策となり、特に飢きんへの備えは幕末まで有効に働きました。一方、このころ通商を求めてロシア船が接近するようになり、幕府は海防への対策にも進められました。

【松平定信(大)】

【松平定信(小)】

【松平定信(中)】

【松平定信(大)】

【松平定信(中)】

【松平定信(大)】

【松平定信(中)】

【松平定信(大)】

【松平定信(中)】

【松平定信(大)】

【松平定信(中)】

【松平定信(大)】

【松平定信(中)】

資料活用アイコン 資料活用

「歴史的な見方・考え方」を動かせるのに適した写真・資料に付しています。p.85、300など全78か所に掲載しています。

確認しよう

本文や図版から、学習上大切な事項を確認させる問いです。正しく文章を読む力(読解力)を養い、知識の確実な定着を促しています。

説明しよう

学習課題を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につながる問いです。思考力、判断力、表現力の育成を促しています。

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

まとめとして章末に「学習を振り返ろう」を設置しています。1 ページ目では「章の問い」に対する考えをまとめる上で大切だと考える出来事を、年表を用いて確認できるようにしています。2 ページ目では「タイムトラベル」と思考ツールを用いた対話を通して、「章の問い」に対する自らの考えをまとめることで「深い学び」を実現できるようにしています。

「学習を振り返ろう」

知・技 思・判・表 主

p.158-159

学習を振り返ろう



4章 近世 (p.105 ~ 157)

武家政権の展開と世界の動き



4章の問い
全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。

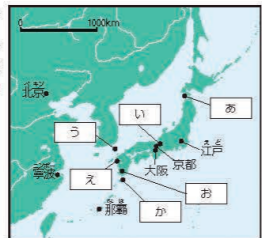
学習事項の確認 知識

時代	主な出来事(政策)	文化	国際	朝鮮	
16世紀	1543 鉄砲の伝来(種子島) 織田信長の台頭(楽市・楽座) 73 室町幕府の滅亡	桃山文化 ・茶の湯(抹茶・わびさび・かまきり) ・城下町・大広間・屏風絵	南蛮貿易 ・南蛮貿易(キリシタン・銅・象牙・胡椒)	明	
17世紀	90 豊臣秀吉が全国統一(検地・刀狩) 文禄の役・慶長の役 1600 B 関ヶ原の戦い 03 徳川家康による江戸幕府の成立 薩摩藩が琉球を征服(武家法度) 幕藩体制の確立 37 島原・天草一揆 ~ 38 (キリスト教禁止) 69 ジャクシャインの戦い 徳川綱吉による政治(文治政治) 五街道・参勤の整備 1716 徳川吉宗による享保の改革(換約)(公事方御定書)	元禄文化 ・浮世草子・浄瑠璃 ・狂言・落首・浄瑠璃 ・俳諧・狂歌・浄瑠璃 ・茶屋・茶屋敷	C 長崎・D 対馬 E 薩摩・F 松前 元禄文化 ・蘭学・蘭物 ・蘭学・蘭物 ・蘭学・蘭物	東洋 ・東洋 ・東洋	朝鮮
18世紀	商品作物の生産(蘭花・紅花など) 幕府や藩も生産を支援 手工業から問屋制家内工業へ 貨幣経済の広まり 田沼意次の政治(商業重視) 82 天明の飢きん ~ 87 百姓一揆・打ちこわし 87 松平定信による寛政の改革(農業重視)(換約)	文政文化 ・文政文化 ・文政文化 ・文政文化	蘭学 ・蘭学 ・蘭学	清	
19世紀	1825 異国船打払令 33 天保の飢きん ~ 36 37 大塩平八郎の乱 41 天保の改革	化政文化 ・化政文化 ・化政文化	外国船の接近	清	

1) 時代の特色を考えるにあたって、次の作業を行って、あなたの年表を完成させよう。

① 政治や国際関係の変化で重要だと考える出来事に赤いマーカーを、生活や社会の様子について重要だと考えた出来事には黄色いマーカーをつけよう。

② 「章の問い」に対する考えをまとめるうえで、大切だと考える出来事を書き足したり、関係のある出来事どうしを矢印で結んだりしよう。



節の振り返り 思考・判断・表現

それぞれの節の学習を振り返って、「節の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

- 節の問い
- 1a ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。 (p.106-113)
 - 2b 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。 (p.116-123)
 - 3b 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。 (p.124-131)
 - 4c なぜ江戸時代に産業や経済が発達したのだろうか。 (p.136-145)
 - 5c なぜ幕府はさまざまな改革を行ったのだろうか。 (p.146-153)

章の振り返り

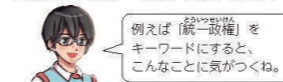
タイムトラベルを活用した振り返りから、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう

思考・判断・表現

① タイムトラベルを活用して振り返ろう。

タイムトラベル「②安土桃山時代」「③江戸時代」を見比べて、大きく変化したことや、重要だと感じたことを見つけよう。また、なぜそう考えたのか、根拠も踏まえて説明しよう。

タイムトラベルを見比べる際は、キーワードを設定し、見方・考え方を働かせよう。



見方・考え方

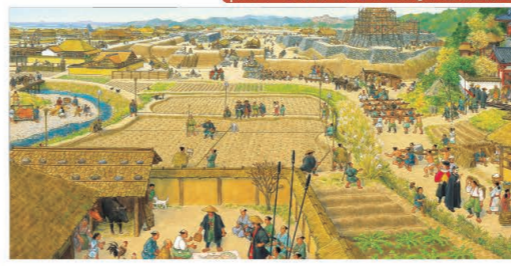
例えば「統一政権」をキーワードにすると、こんなことに気がつくね。

比較 農具や農作物の違いに着目しよう

「②安土桃山時代」と「③江戸時代」の絵を見比べて、百姓たちが使っている農具や、育てている農作物はどのような違いがあるだろうか。

相互の関連 武器をもつ人々が増えた背景に着目しよう

p.90~91の「①室町時代」や、「②安土桃山時代」、「③江戸時代」で、武器をもっている人々が増えていることは、統一政権の誕生とどのように関連しているだろうか。



p.114~115 タイムトラベル ②安土桃山時代



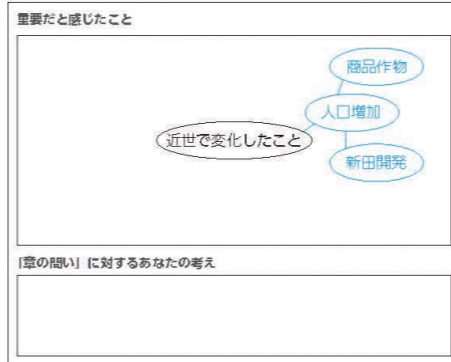
p.134~135 タイムトラベル ③江戸時代

② ほかの人と話し合っ「章の問い」を考察しよう。

①で見つけたことや左の年表にマークしたこと、統一政権の誕生による社会の変化を考えるにあたって重要だと感じたことについて、あなたの考えを整理しよう。例えば右のように、それぞれの事項がどのように関連するのかを整理して考えよう。

グループになり、整理したなかから特に大きな変化だと感じたこととその理由を発表し、意見交換をしよう。発表にあたっては、「節の振り返り」を参考にして、そのことの影響や原因、結果や影響も踏まえよう。

グループでの話し合いで気づいたことを踏まえ、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。



章の振り返り① NEW

タイムトラベルを活用して時代の変化や特色をつかむ

「タイムトラベル」を振り返り、他の時代と見比べて、大きく変化したことや重要だと感じたことを見つけ、なぜそう感じたのかを根拠も踏まえて説明します。

「タイムトラベル」を見比べる際の着眼点やキーワードがあるので、「歴史的な見方・考え方」を働かせることができます。

章の振り返り② NEW

思考ツールに考えをまとめて対話を通して考えを深める

①で見つけたことや左の年表の中から、重要だと感じたことを思考ツールにまとめて考えを整理できるようにしています。整理した中から特に大きな変化だと感じたことを、グループになって意見交換をします。グループでの話し合いで気づいたことを踏まえて、「章の問い」に対する自らの考えをまとめられるようにしています。

章の振り返り③へ (本資料 p.37-38)

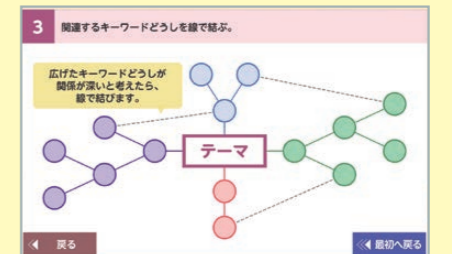
巻頭9

考えを整理する方法 ~ 思考ツールを活用しよう ~

- Xチャート
- 座標軸
- ステップチャート
- ランキング

QRコンテンツでは、この思考ツールの解説や活用方法も紹介しています。確認してみましょう。

● Xチャート ● ウェビング ● クラウドチャート ● トーランドンツ ● ペン ● ノットリクス



学習事項の確認 NEW

「政治・国際関係の変化」や「生活・社会の様子」など要素ごとに色を分けてマーカーをつける、書き足すなどして自分なりの年表を作ることができます。

節の振り返り

章の中の「節の問い」を振り返ります。

ポイント

思考ツールアイコン

思考ツール 巻頭9 NEW

視覚的に分析したり考えを整理したりする際に用いる図や表を、思考ツールといいます。思考ツールを活用する場面には「思考ツールアイコン」を付し、活用を促しています。また、巻頭9とQRコンテンツでは、教科書で取り上げている思考ツールの紹介と、活用の手順を動画で説明しています。

思考ツールアイコン掲載ページ一覧(全4か所)

ページ	思考ツールの種類
p.159	ウェビング
p.225	Xチャート
p.273	ステップチャート
p.305	ランキング

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

見通し・振り返りがしやすい構成で「指導と評価の一体化」を支援

「学習を振り返ろう」の3ページ目ではこれまでの考察を踏まえて、どのような特色のある時代だったかを根拠をもってまとめることで時代への理解を深めることができます。各章末「学習を振り返ろう」のあとに、次に学習する時代の「章扉」を設置することで、見通しが立てやすい構成にしています。

「学習を振り返ろう」

知・技

思・判・表

主

3 時代の特色を考察しよう。 思考・判断・表現

●これまでの考察を踏まえて、近世はどのような時代だったかを、あなたの言葉でまとめよう。

○ **近世の特色**

○ 近世は、 [] [の] 時代である。

○ なぜなら、 [] [だ] からである。

●上でまとめたあなたの考えを、タイムトラベルを活用して、発表しよう。



「これからの社会を構想しよう」(→p.307)への準備

現在のつながりを考えよう

近世の学習から、現在の社会と共通していると感じたことは何か、また、大きく異なっていると感じたことは何か、右の視点を参考に話し合ってみよう。その際、タイムトラベルも改めて見返してみよう。

視点

- ・特産物の生産
- ・ひな祭りや端午の節句などの行事
- ・印刷物の普及
- など

SDGsとのつながりを考えよう

コラム「未来に向けて」や本文、タイムトラベルなどから、地球的な課題と関連していると感じたものを探し、SDGsの17の目標のうちどの目標とつながっているのか、ほかの人と話し合ってみよう。

江戸時代には、資源を大切に使う習慣が根づいていたね。教科書ではどのような取り組みが紹介されていたかな。

12 地球規模の課題

●「学習する時代の見通し」(→ p.105)に戻ってみよう 主体的な学び

章のはじめにあなたが立てた予想から、あなたの、この時代に対する考えはどのように深まっただろうか。章の学習を通じて感じたことや、さらに深めたいと思ったことを、下の「振り返り」に書いてみよう。

- 節や章の問い、時代の特色をまとめる際に使用した用語に✓をつけよう。
- 香辛料 (p.108)
 - 植民地 (p.111)
 - 太閤 (p.117)
 - 百姓 (p.118)
 - 旗本と御家人 (p.125)
 - オランダ風説書 (p.129)
 - 蝦夷地 (p.131)
 - 五街道 (p.140)
 - 浮世絵 (p.145)
 - 貨幣経済 (p.146)
 - 商品作物 (p.147)
 - 打ちこわし (p.148)
 - 朝鮮通信使 (p.129)

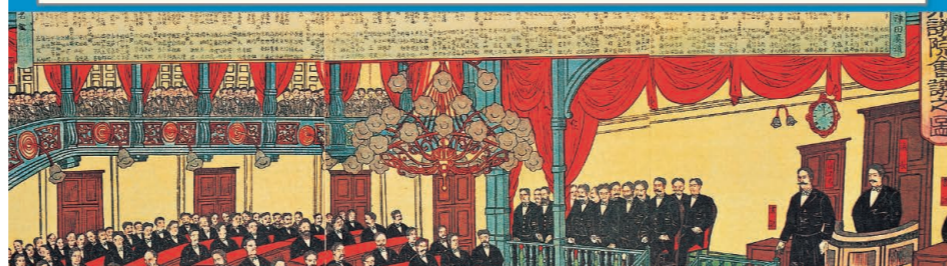
振り返り

- 章の問い：学習を通して考えをまとめることが よくできた できた あまりできなかった
- 時代の特色をまとめるうえで有効だった「見方・考え方」 時期や年代 推移 比較 相互の関連
- 「学習する時代の見通し」から考えが深まったこと

● 章の学習を通して感じたこと・さらに深めたいと思ったこと

第5章 近代前半 近代国家の歩みと国際社会

5章の問い
近代国家の建設を目指すことによって、社会はどのように変化したのだろうか。



● 小学校で学んだ人物と主な出来事

江戸時代		明治時代	
1837 大塚平八郎 の乱が起こる → 大塚平八郎	1853 ペリーが 日本に 来航する → ペリー	1867 徳川慶喜が 政権を朝廷 に返す → 明治天皇	1868 江戸を東京 とする
		1889 大日本帝国 憲法が公布 される	1894 日清戦争 が起こる → 洗足栄一

● 「学習する時代の見通し」をもとう

これから学習する時代について、どのような時代なのか、ほかの人と話し合ってみよう。その際、小学校で学習した人物や主な出来事、前の章で学習した時代の特徴を踏まえよう。

★この時代では、前の章で学習した時代から

どのように社会が変化するか、予想を書こう。

この章で学習する節の問い

- 1節 欧米諸国における近代化 (p.162-175)
- 2節 開国と幕府の終わり (p.176-183)
- 3節 明治政府による近代化の始まり (p.186-191)
- 4節 近代国家への歩み (p.194-203)
- 5節 帝国主義と日本 (p.206-213)
- 6節 アジアの強国の光と影 (p.214-223)

→ p.224で振り返ろう 161

章の振り返り③ NEW

これまでの考察を踏まえて、どのような特色のある時代だったかをまとめる

最後にまとめた考えは、「タイムトラベル」を活用して発表します。

「主体的・対話的で深い学び」へ

「これからの社会を構想しよう」への準備 NEW

歴史的分野の最終単元に「これからの社会を構想しよう」(本資料 p.43-44)を設置し、公民的分野の学習活動につなげられます。

各章での学習を「現在」SDGsと関連付けて考えることで、これからの社会を構想する姿勢を育成することができます。

公民的分野の学習へ

「学習する時代の見通し」(章扉)に戻ってみよう NEW

章のはじめに立てた予想から、この時代に対する考えがどのように深まったかを振り返ることができます。

章の学習を通じて感じたことや、さらに深めたいと思ったことを書き出すことで、「主体的な学び」につなげることができます。

次章の章扉へ

「学習する時代の見通しを」もとう(章扉) NEW

これから学習する時代について、どのような時代なのかを話し合う活動を設置しています。

前の章の「学習を振り返ろう」を確認しながら、次に学習する時代におこる社会の変化を予想することができます。

「主体的・対話的で深い学び」につながる単元構成

対話を通して学びを深める「アクティブ歴史」

NEW

「主体的・対話的で深い学び」を実践する特設「**アクティブ歴史**」を新設しています。対話を通して、課題に粘り強く向き合う姿勢や、他者との意見交換を通して合意形成を目指す態度を身に付けられるようにしています。また、単元の学習を生かして取り組むことで、単なる知識・技能ではなく、「生きて働く知識・技能」を定着させることができるようにしています。

アクティブ歴史 AL

赤穂事件を考察する



ワークシート

見方・考え方
江戸時代の人々の考えや、幕府の方針に着目しよう。

学習課題

徳川綱吉(→ p.137)の治世下、旧赤穂藩の浪士(赤穂浪士)たちが主君の仇討ちをした事件(赤穂事件)は、当時、大きく注目され、赤穂浪士は人々から賞賛されました。この事件の処罰の方針をめぐる意見から、当時の政治や社会の特色を考察しましょう。

テーマ 仇討ちを果たした赤穂浪士に対し、江戸幕府は、どのように対処したのだろうか。

赤穂事件とは…

1701(元禄14)年、幕府の重要な行事の当日に、その担当であった赤穂藩主の浅野内膳長矩が、同じく担当していた吉良上野介義央を突然切りつけました(松の廊下事件)。この責任をとるため、浅野内膳頭長矩は幕府から即日切腹を命じられ、赤穂藩も改易(廃藩)となりました。残された赤穂浪士は翌年、吉良邸内に討ち入り、吉良上野介義央を討ち取りました。人々は、浪士たちを、主君の仇討ちを果たした「忠臣の義士」と讃めたためました。



幕府内の意見

5代将軍徳川綱吉は迷っていた…

もし、主君の仇討ちを許さないというのであれば、古くからの道理にも背き、忠臣や孝子*の心を傷つけることになる。さらには、「学問・武道と忠義・孝行に勤む」とした武家諸法度にも背くものである。浪士たちを厳罰にするのは、果たして適切なことなのだろうか。

幕府の評定所*の意見

浪士たちは主人の遺志を継いだ忠臣です。大勢で討ち入ったのはその志を遂げるためだけの手段です。しばらくは大名預けとして何年か後に判決を出すのがよいと考えます。

幕府の文書をつかさどった幕官 林信篤の意見

主君の仇討ちを果たした彼らは、武士道を実践して大いに認められるものです。しかし、彼らが天下の法を破ったことは間違いない。これは道理に背くものです。

綱吉の老中に仕えた儒学者 政生伯樸の意見

浅野が吉良を殺そうとしたのであって、吉良が浅野を殺したわけではありません。そのため、吉良は浅野の仇ではありません。浅野は、一時の怒りからして吉良を殺そうとしたので、浪士たちの行動は、主君のこの「怨志」*を継いだものであって、忠義とはいえないでしょう。 *間違った思いや考え

技能をみかく 11 資料をもとに、当時の人々の考え方を理解する

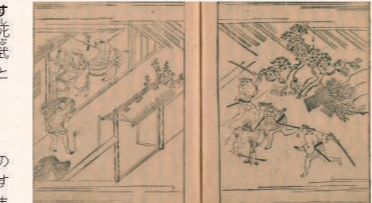
当時の人々の考え方は、現在の私たちと同じとは限りません。当時の人々の考え方を理解するには、当時の人々の言葉などの資料をもとに、当時の政治や社会の特色を踏まえて、当時の人々になったつもりで考えることが大切です。

資料 赤穂事件をめぐる動きや背景

主な処罰

赤穂藩主浅野内膳頭長矩… 即日切腹
赤穂藩… 改易(廃藩)
吉良上野介義央… 処罰なし

松の廊下事件に対する主な処罰は、死罪ではありませんが、武士の礼にならなかった処罰と考えられています。



赤穂浪士をよんだ歌

たのもしや内膳の家に内蔵ありて 武士の鎖を取り出しけり

頼もしいことではないか。内蔵の家(浅野内膳の頭)に内蔵(大石内蔵助)がいて、武士の鎖(手本)を取り出してきた。

歌からは、江戸の人々の討ち入りに対する共感が読みとれます。当時の人々は、徳川幕府が武士の慣例であるのに、吉良は切腹しなかったことに対して、武士らしくないと思っていたともいわれています。

武家諸法度 天和令

- 一、学問・武道と忠義・孝行に勤み、礼儀正しくふるまうこと。
 - 一、謀反を計画したり、仲間(徒党)を集めて行動を起こす誓約を結ぶことを禁止する。
 - 一、喧嘩や口論はしないようにし、私的な争いを禁止する。
- もし、やむを得ない理由があれば、奉行所に届けて指示を待つこと。

武家諸法度の方針変更(天和令) 徳川幕府は、それまでの武家諸法度の最初の一文であった「文武両道の道に、むたすら勤むこと」(→p.125)を改め、「忠義と孝行に勤むこと」を強調しました。このほかにも儒学を重視するなど、学問や礼節を重んじる政治へと転換を行いました。

資料活用 p.125の武家諸法度の内容と比較してみましょう。

TRY 整理しよう ①幕府内の意見と資料を読んで、浪士に対して助命する意見と厳罰にする意見を、その根拠を示して整理しよう。

	主な意見	その根拠
助命		
厳罰		

考えよう ②「整理しよう」を踏まえて、あなたが将軍であったら、どのような処罰を下すだろうか。以下のいずれかを選び、当時の資料に基づいた判断の根拠を明確にして書こう。

助命・厳罰・その他
赤穂浪士たちの処罰は、
その根拠

表現しよう ③下の資料、実際の幕府の処罰を読み、あなたの考えとどの点に相違があったのか、確認しよう。

④なぜ、幕府は浪士たちに、全員「切腹」という処罰を決定したのだろうか。グループになり、その理由を簡潔に目指した政治の考えを根拠に、グループの人に説明しよう。

幕府の赤穂浪士に対する処罰 浪士たちは、主人の仇に頼ると主張して、浪士たちで徒党を組み、吉良邸へ押し込み、飛び道具などで持参し、吉良義央を討ったことは、幕府を恐れない行動で、法に背いた行為である。これによって切腹を命じる。

「アクティブ歴史」掲載ページ一覧(全5テーマ)

ページ	テーマ	時代
p.34-35	前方後円墳の役割を考察する	古代
p.76-77	武士の暮らしから考察する	中世
p.156-157	赤穂事件を考察する	近世
p.204-205	『三酔人経綸問答』を考察する	近代前半
p.248-249	「母性保護論争」を考察する	近代後半

当時の社会の様子を読み解く資料

資料を読み解くことで、**当時の社会の考え方を踏まえてテーマをさらに深く考察**できます。江戸の人々が赤穂事件をどのように見ていたのかを示し、また私的な争いを禁止する武家諸法度の条文などを提示しています。

ポイント

活動を促すさまざまなパフォーマンス課題

習得した知識や技能を使って実践的に考えていくパフォーマンス課題を設定しています。ペーパーテストでは測りにくい「**思考・判断・表現**」や「**主体的に学習に取り組む態度**」の見取りに最適です。

対話を中心とした活動型学習

正解がひとつでない課題に対して、意見交換や発表をする**対話型の学習活動**を多く設定しています。対話を通した「**深い学び**」が実現できるようにしています。

「見方・考え方」の活用

ページ全体で働かせる「見方・考え方」を明示しています。「見方・考え方」を働かせることで、**歴史的分野の資質・能力**を育成できるようにしています。

他分野とのつながり

例えば、p.248-249「母性保護論争」を考察するでは、女性の社会進出に際して、出産や育児の負担をどのように解決すべきかを、歴史的な背景を踏まえて当時の資料をもとに考えます。学習活動の最後には、当時問題であったことを現在の社会の状況と重ねて話し合う活動で結びとしており、**公的分野の学習に接続**できます。

当時の人々の意見

テーマを受けて相対立する意見を具体的に示していき、**多面的・多角的に考察**するきっかけにしています。ここでは、赤穂事件をめぐる、どのような意見の対立があったのかを具体的に示しています。

ポイント

対話アイコン

他者とのやり取りを通じて思考を広げる問いや学習課題には「対話アイコン」を付しています。対話を通して自らの考えをより深めるとともに、他者の意見を尊重する態度を身に付けられるようにしています。p.157、225など**全37か所**に設置しています。

考えを深めるアクティビティ

論点の整理→自分なりの考察→話し合いのステップで、段階的に自分の考えを深めていく中で、「**主体的・対話的で深い学び**」を実現できるようにしています。

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

課題に対する先人たちの努力や工夫の事例を多数掲載

巻頭「未来に向けて よりよい社会を目指して」

巻頭で、SDGsの17の目標とその実現に向けた先人の取り組みを紹介しています。帝国書院の地理的分野・公民的分野の教科書でも同様のページを設置し、中学校社会科の学習全体を通して「持続可能な社会の実現」を意識づけられるようにしています。

この教科書に登場する生徒
いづい けんた かずで しゅん

これからの社会に向けて
私たちが暮らす日本も世界の国々も、持続可能な社会を実現するために、SDGs (Sustainable Development Goals) とよばれる「持続可能な開発目標」に取り組んでいます。SDGsは、下のように17の目標からなり、世界のさまざまな問題の解決に向けて2030年までに達成すべき目標として、2015年に国際連合で採択されました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

日本の歴史

←巻頭1-2

「未来に向けて」掲載ページ一覧(コラム全63か所+巻頭・巻末)

ページ	タイトル	テーマ	時代	ページ	タイトル	テーマ	時代	ページ	タイトル	テーマ	時代
巻頭 1-2	よりよい社会を目指して			p.101	庭園づくりで活躍した河原者	人権・多文化	中世	p.166	工業の発達と地球温暖化	環境・エネルギー	近代前半
p.19	エジプトはナイルの賜物	防災	古代	p.109	アメリカ大陸に渡った病原菌	平和・安全	近世	p.167	工業の発達と生活環境の悪化	環境・エネルギー	近代前半
p.39	今に生きる高度な技術	情報・技術	古代	p.121	大規模建築と森林伐採	環境・エネルギー	近世	p.170	先住民の涙の旅路	人権・多文化	近代前半
p.47	古代の疫病の流行と人々の対応	平和・安全	古代	p.121	築城の工夫と技術	情報・技術	近世	p.171	奴隷制を告発した「アングル＝トム」の小屋	人権・多文化	近代前半
p.49	自然災害と神話	伝統・文化	古代	p.123	朝鮮半島から伝わった文化	人権・多文化	近世	p.174	植民地の拡大と医薬品の開発	情報・技術	近代前半
p.55	自然へのおそれと陰陽道	環境・エネルギー	古代	p.129	日本と朝鮮をつないだ使節	人権・多文化	近世	p.175	世界各地に広がる人権思想・民族意識	人権・多文化	近代前半
p.58	紙園祭の始まり	平和・安全	古代	p.137	差別された人々	人権・多文化	近世	p.179	洗染一揆	人権・多文化	近代前半
p.73	鴨長明がみた自然災害	防災	中世	p.138	利根川のつけ替え工事	防災	近世	p.179	稲むらの火	防災	近代前半
p.80	グローバルな東西交流の光と影	情報・技術	中世	p.139	森林伐採と植林	環境・エネルギー	近世	p.187	差別からの解放運動	人権・多文化	近代前半
p.89	北海道独自の文化	伝統・文化	中世	p.145	日本人がつくった最初の暦	情報・技術	近世	p.201	自由は土佐の山間より	人権・多文化	近代前半
p.92	結核から見る技術の発達	情報・技術	中世	p.152	ワクチン接種の始まり	平和・安全	近世	p.203	日本での選挙の始まり	人権・多文化	近代前半
p.93	中世の老人と子ども、女性	人権・多文化	中世	p.154	日常生活を支えた江戸の上水道	情報・技術	近世	p.213	孫文と神戸のかかわり	人権・多文化	近代前半
p.97	自然を生かした信玄堤	防災	中世	p.155	江戸のごみを利用した農業	環境・エネルギー	近世	p.219	公害の登場 足尾銅毒事件	環境・エネルギー	近代前半

未来の社会をつくるための教訓となる人々の取り組みを紹介するコラム「未来に向けて」を63か所に設置しています。よりよい未来を構想するためのヒントを得られるようにしています。

コラム「未来に向けて」

地理的分野・公民的分野と共通する「環境・エネルギー」「防災」「人権・多文化」「平和・安全」「情報・技術」「伝統・文化」の6つのテーマから、未来の社会をつくる取り組みを紹介しています。

↑p.155 江戸のごみを利用した農業 (環境・エネルギー)

↑p.97 自然を生かした信玄堤 (防災)

←p.93 中世の老人と子ども、女性 (人権・多文化)

↑p.155 自然災害と神話 (伝統・文化)

↑p.49 ワクチン接種の始まり (平和・安全)

↑p.39 今に生きる高度な技術 (情報・技術)

「持続可能な社会の実現」に向けた意識を育む工夫

歴史で学んだことを未来に生かす「これからの社会を構想しよう」

NEW

最終單元では、これまでの学習を「現在」・「SDGs」につなげて考える「これからの社会を構想しよう」を設置しています。歴史的分野の学習を振り返って、歴史と自分たちとのつながりや、現在の日本や世界のあり方について考える対話型学習に取り組むことで、よりよい社会の実現に向けた参画意識を育むことができるようにしています。

3 時代の特色を考察しよう。 思考・判断・表現

①これまでの考察を踏まえて、近世はどのような時代だったかを、あなたの言葉でまとめよう。

近世の特色

近世は、 [] [の] 時代である。

なぜなら、 [] [だ] からである。

②上でまとめたあなたの考えを、タイムトラベルを活用して、発表しよう。

「これからの社会を構想しよう」(→p.307) への準備 対話

現在との つながりを考えよう

近世の学習から、現在の社会と共通していると感じたものは何か、また、大きく異なっていると感じたものは何か、右の視点を参考に話し合ってみよう。その際、タイムトラベルも改めて見返してみよう。

視点

- ・特産物の生産
- ・ひな祭りや端午の節句などの行事
- ・印刷物の普及
- など

SDGsとの つながりを考えよう

コラム「未来に向けて」や本文、タイムトラベルなどから、地球的な課題と関連していると感じたものを探し、SDGsの17の目標のうちどの目標とつながっているのか、ほかの人と話し合ってみよう。

江戸時代には、資源を大切に使う習慣が根づいていたね。教科書ではどのような取り組みが紹介されていたかな。

●「学習する時代の見直し」(→p.105)に戻ってみよう **主体的な学び**

章のはじめにあなたが立てた予想から、あなたの、この時代に対する考えはどのように深まっただろうか。章の学習を通じて感じたことや、さらに深めたいと思ったことを、下の「振り返り」に書いてみよう。

章の重要語

- 香辛料 (p.108)
- 植民地 (p.111)
- 太閤 (p.117)
- 百姓 (p.118)
- 旗本と御家人 (p.125)
- オランダ風説書 (p.129)
- 蝦夷地 (p.131)
- 五街道 (p.140)
- 浮世絵 (p.145)
- 貨幣経済 (p.146)
- 商品作物 (p.147)
- 打ちこわし (p.148)
- 朝鮮通信使 (p.129)

振り返り

●章の問い：学習を通して考えをまとめることが

よくできた できた あまりできなかった

●時代の特色をまとめるうえで有効だった「見方・考え方」

時期や年代 推移 比較 相互の関連

●「学習する時代の見直し」から考えが深まったこと

●章の学習を通して感じたこと・さらに深めたいと思ったこと

これからの社会を構想しよう

古代から現代までタイムトラベルして、各時代の特色がよく分かったよ。

時代の特色は、前の時代から変わった点や、社会的な課題となっていた点に注目すると説明しやすいね。

それでは、最初の質問をもう一度聞こう。

現在は何といわれる時代かな？下の形式を使って、現在、課題となっていることに注目して時代の特色をまとめよう。

私はこう考えるかな。

私考える現在の社会的な課題は [] ことにあると思います。

そのため現在は [] 時代だと思います。

私はこれから90年後の22世紀に降るから22世紀の中学生に []

「今がどんな時代か、それをこのあと、自分たちがどのように解決していくか」それを伝える手紙を書いてくれませんか？

ここでは、3年間の歴史の学習を振り返って、歴史と私たちのつながりや、現在と未来の日本や世界のあり方について、考えをまとめたり話し合ったりして、表現してみよう。取り組むときには、グループを組んでやってみよう。

①各時代について、その特色と、現在やSDGsとのつながりを書き出そう

これまでの学習を振り返って、各時代の特色をまとめよう。そして、現在とのつながりやSDGsとのつながりを考え、右に書き出してみよう。その際には、各章の振り返りの「これからの社会を構想しよう」への準備で話し合った内容を思い出そう。

	時代の特色	現在とのつながり	SDGsとのつながり
2章 古代 → p.62			
3章 中世 → p.104			
4章 近世 → p.160			
5章 近代前半 → p.226			
6章 近代後半 → p.274			
7章 現代 → p.306			

グループで話し合いながら、できるだけたくさん書き出そう。

展開①(p.307) 各時代について、その特色と現在やSDGsとのつながりを書き出す

各章末の「学習を振り返ろう」で考察した内容を、グループで話し合ってみよう。話し合ってみよう。話し合ってみよう。話し合ってみよう。

展開②(p.308) テーマを決め、歴史的な背景を整理して課題解決への鍵を探る

- SDGs17のゴール(教科書巻頭1-2)などを参考にして、現代社会の課題となっていることの中から、関心の高いテーマをグループで決めよう。
- 設定したテーマについて、現在に至るまでにどのような歴史的経緯があったのかを整理しよう。
- 整理を踏まえて、課題を解決するために何が鍵になるかをグループで話し合おう。

展開③(p.309) これまでの学習を踏まえて、未来への手紙を書く

歴史的分野の学習の総まとめとして、「これから自分が何に取り組むつもりか、未来の社会はどのようになっているか」を、22世紀の中学生へ手紙を書く作業を設置しています。

公民的分野の学習へ

ポイント

各章末の「学習を振り返ろう」の中の「これからの社会を構想しようへの準備」で取り組んだ内容をもとに、現代社会の課題について歴史的な経緯を調べ、課題解決への鍵を探る学習活動をする構成となっており、公民的分野の学習に接続できるようになっています。

「個別最適な学び」を支援するコンテンツ

一人一台端末で活用できるQRコンテンツ

QRコンテンツを391用意し、「個別最適な学び」を支援しています。

教科書のもくじや中面の随所、裏表紙に掲載している

QRコードからアクセスできるようにしています。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。 ※通信料は別途かかります。
※コンテンツの数および内容は、変更になる可能性があります。

こちらからお試
いただけます。



<https://tks46.jp/07jhs/his>

社会科 中学生の歴史

タイムトラベル

学習を振り返ろう

アクティブ歴史

世界とのつながりを考えよう

用語解説

NHK for School

他分野教科書リンク

巻末年表

思考ツール・白地図

教科書を活用した学び方

リンク集

利用規約

単元別メニュー

帝国書院

↑メニュー画面

学習内容を定着させるコンテンツ（**定着**）や、学習内容を深化させるコンテンツ（**深化**）を収録しています。

「単元別メニュー」では各コンテンツを単元ごとに分類し、学習する単元で活用できるコンテンツがすぐに見つかるようにしています。

QRコンテンツ一覧

コンテンツ	QRコードの教科書掲載ページ	収録数	
1 タイムトラベル	14, 26, 36, 52, 64, 90, 114, 134, 184, 236, 250, 276	12	
2 学習を振り返ろう	60, 102, 158, 224, 272, 304	4種×6単元	NEW
3 アクティブ歴史	34, 76, 156, 204, 248	10	NEW
4 世界とのつながりを考えよう	50, 168	6	NEW
5 用語解説	310	50	NEW
6 NHK for school	4, 15, 16, 28, 38, 54, 63, 66, 78, 92, 105, 106, 116, 124, 136, 146, 161, 162, 176, 186, 194, 206, 214, 227, 228, 238, 252, 262, 275, 278, 284, 298	108	増補
7 他分野教科書リンク	巻頭1-2	35	NEW
8 巻末年表	折込1	1	
9 思考ツール・白地図	巻頭9	思考ツール21・白地図93	NEW
10 教科書を活用した学び方	巻頭5	2	NEW
11 リンク集	巻頭6	29	NEW
12 単元別メニュー	4, 15, 16, 28, 38, 54, 63, 66, 78, 92, 105, 106, 116, 124, 136, 146, 161, 162, 176, 186, 194, 206, 214, 227, 228, 238, 252, 262, 275, 278, 284, 298	—	
		全391	



タイムトラベル **定着**

タイムトラベルの「次の場面を探してみよう！」の①～⑥がイラスト内のア～カのどれにあたるかを確認できます。

全時代のタイムトラベルをつなげた、「タイムトラベル巻物」で時代の変遷をひとつなぎで確認することもできます。

全12点

→タイムトラベル⑧江戸時代



学習を振り返ろう **定着** **NEW**

章末にある「学習を振り返ろう」ページに対応したワークシート（Wordデータ・PDFデータ）と、「学習事項の確認」の年表を穴あけで確認できるクイズと解答（PDF）を収録しています。端末上で単元の振り返りができるようにしています。

全24点

→第4章近世のワークシート

4章 近世 武家政権の崩壊と世界の動き

章の問い：
全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。
★この時代では、前の章で学習した時代からどのように社会が変化するか、予想を言おう。

1 節の問い：ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。

2 節の問い：全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。

3 節の問い：江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。



アクティブ歴史 **定着** **NEW**

「アクティブ歴史」ページに対応したワークシート（Wordデータ・PDFデータ）を収録しています。端末を活用しながら「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしています。

全10点

→「『三酔人経綸問答』を考察する」ワークシート

アクティブ歴史 『三酔人経綸問答』を考察する

テーマ：明治維新後、国家建設が進むなかで、日本は他国とどのようにつきあうべきだろうか。

TRY 整理しよう

①三人の主張を下の表にまとめてみよう。

	主張	その根拠
紳士君		
豪傑君		
南海先生		

「個別最適な学び」を支援するコンテンツ

一人一台端末で活用できるQRコンテンツ



世界とのつながりを考えよう **定着 NEW**

「世界とのつながりを考えよう」のイラストを解説とズーム機能を使って確認できます。イラストの細部まで確認することで、教科書の学習を補完できるようにしています。

全6点

→産業革命期のイギリス



用語解説 **深化 NEW**

教科書に掲載している用語の定義や意味を収録しています。検索機能もあり、調べたい用語をすぐに確認できるようにしています。

全50語句



NHK for School **深化**

NHK for Schoolへのリンクを単元ごとに収録しています。具体的な映像で知識定着が図れるようにしています。

全108点

→近世の動画一覧



他分野教科書リンク **深化 NEW**

学習に関連する帝国書院の地理的分野と公民的分野の教科書および、地図帳の紙面を収録しています。多面的・多角的に考察できるようにしています。

全35点

→SDGsに関連した地理的分野教科書の紙面

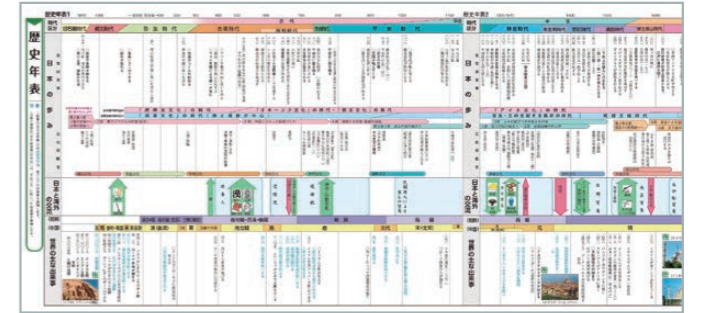


巻末年表

古代から現代までの出来事を一覧で確認できるようにしています。

全1点

→巻末年表

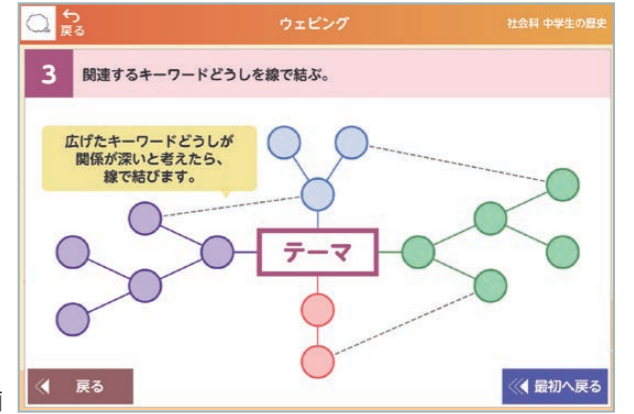


思考ツール・白地図 **定着 NEW**

思考ツール(本資料p.35-36)の解説動画とデータ(PDFデータ)および白地図データへのリンクを収録しています。多様な手法で思考を深められるようにしています。

思考ツール21点
白地図93点

→ウェブページの活用手順解説動画

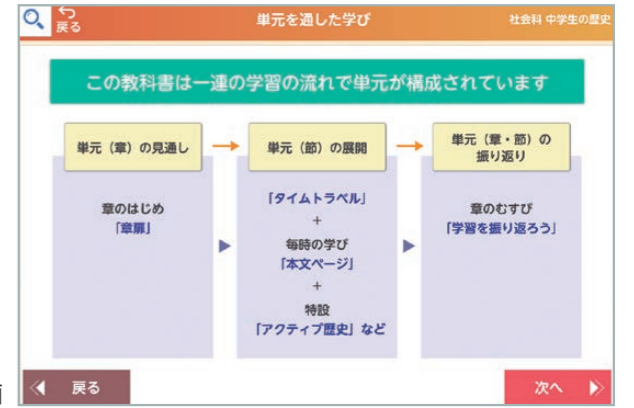


教科書を活用した学び方 **NEW**

「単元を通した学び」と「毎時の学び」を動画で解説しています。学習の流れを把握できるようにしています。

全2点

→「単元を通した学び」の解説動画



リンク集 **NEW**

学習に関連する外部サイトへのリンク集を収録しています。調べ学習などで活用できるよう、テーマごとにまとめています。

全29点 →国立博物館・図書館等のウェブサイトへのリンク集



「歴史的な見方・考え方」を働かせる工夫

「歴史的な見方・考え方」*を働かせる工夫ができるよう、資料や本文を工夫しています。教科書の巻頭8では、「歴史的な見方・考え方」とは何か、具体的な事例を示しながら端的にわかりやすく説明しています。

* 「歴史的な見方・考え方」とは「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」の4つを指します。

巻頭8の解説

歴史的な見方・考え方

中学校社会科の歴史的分野では、日本や、日本と関わる世界について学び、日本の各時代の特色を探りながら学習を進めていきます。歴史を学ぶ際には、歴史的な見方・考え方を働かせると、歴史の意味をより深く理解することができます。

「歴史」の学習は、人や事件の名前を覚えていくだけではなく、



小学校では、社会的な見方・考え方を働かせて学習を進めなければ、中学校でも見方・考え方が大事なんだね。



→歴史的な見方・考え方を働かせて「ペリーの来航」を見てみよう

年	主な出来事
17世紀後半～	外国の船がたびたび日本の周りに来る
1853	アメリカのペリーが浦賀に来る
1854	ペリーが横浜に来る
同年	日米和親条約を結ぶ
1858	日米修好通商条約を結ぶ
1858以降	日本の物価が上がり、人々の不満が高まる。幕府を倒す運動が激しくなる
1867	幕府が大政奉還を行う → 明治時代へ

【ウィリアム・ハイネ原画「ペリー提督・横浜上陸の図」横浜開港資料館蔵】



↑1 江戸時代末期の主な出来事

→2 ペリーの横浜来航を描いた絵画

時期や年代

この出来事は、いつ、どこで、誰が起こしたのかな？

出来事が「いつ、どこで、誰が起こしたのか」ととらえることが必要となります。時系列でとらえることで、初めて出来事の意味を考えられるようになります。

推移

この出来事は、その後、どのように移り変わったのかな？

出来事がどのように展開していったのか、また、出来事によって何が変化し、何が変化しなかったのかに注目することで、出来事の意味を考えられることができます。

比較

ほかの出来事と比べて、共通点や違う点はどこかな？

出来事と、ほかの出来事を比較すると、共通点や違う点が見つかります。その理由を考えることで、それぞれの出来事の特徴を見出すことができます。

相互の関連

この出来事はなぜ起こり、どんな結果になったのかな？

出来事の原因・背景や結果・影響に注目することで、それぞれの出来事がどのように関連しているかが分かり、歴史の大きな流れをとらえることができます。



ひとつの出来事に、さまざまな歴史的な見方・考え方を働かせることが大事なんだね。



歴史的な見方・考え方は、歴史上の人物や物事について考えるときなど、いろいろなことに活用できそうだね。

歴史的な見方・考え方を働かせていけば、歴史への「なぜ」がたくさん見つかります。そうした謎を解き明かしながら歴史を学び、各時代の特色を考察しましょう。

巻頭8

→巻頭8

ポイント

見方・考え方アイコン 見方・考え方 **NEW**

「学習を振り返ろう」ページに、単元の学習を振り返る際に働かせる「歴史的な見方・考え方」を、また「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」「アクティブ歴史」ページには、課題に取り組む中で働かせる「歴史的な見方・考え方」をアイコンで示しています。(全28か所)

本文の工夫

時期や年代

この出来事は、いつ、どこで、誰が起こしたのかな？

出来事が「いつ、どこで、誰が起こしたのか」ととらえることが必要となります。時系列でとらえることで、初めて出来事の意味を考えられるようになります。

推移

この出来事は、その後、どのように移り変わったのかな？

出来事がどのように展開していったのか、また、出来事によって何が変化し、何が変化しなかったのかに注目することで、出来事の意味を考えられることができます。

新田開発と農業技術の発達

江戸幕府の支配の下、戦乱のない時代が訪れると、17～18世紀にかけて人口は急速に増加し、18世紀初めには、17世紀初めの約2倍にあたる3000万になったと推定されています。幕府や大名は、人口増加に対応するため、用水路をつくったり、干潟や沼地を干拓したりするなど新田開発に力を注いで米の生産量を増やすことに努めました。

一方、農民たちも、土地を深く耕することができる備中鍬や、楽に脱穀ができる千歯こきなどの農具を使用し、干鰯や油かすなどの、より栄養価の高い肥料も使うようになり、生産の効率が大きく上がりました。この時期に、農業技術を記した農書が木版印刷によって全国に広まったことも、こうした農業の新しい動きを後押ししました。この結果、耕地面積とともに米の生産量も飛躍的に増え、人々の生活はしだいに安定していきました。

↑p.138

資料の工夫

比較

ほかの出来事と比べて、共通点や違う点はどこかな？

出来事と、ほかの出来事を比較すると、共通点や違う点が見つかります。その理由を考えることで、それぞれの出来事の特徴を見出すことができます。

相互の関連

この出来事はなぜ起こり、どんな結果になったのかな？

出来事の原因・背景や結果・影響に注目することで、それぞれの出来事がどのように関連しているかが分かり、歴史の大きな流れをとらえることができます。

1 タイムトラベルを活用して振り返ろう。

タイムトラベル「②安土桃山時代」「⑧江戸時代」を見比べて、大きく変化したことや、重要だと感じたことを見つけよう。また、なぜそう考えたのか、根拠も添えて説明しよう。タイムトラベルを見比べる際は、キーワードを設定し、見方・考え方を働かせよう。



例えば「統一政権」をキーワードにすると、こんなことに気がつくね。

比較 農具や農作物の違いに着目しよう

「②安土桃山時代」と「⑧江戸時代」の絵を見比べて、百姓たちが使っている農具や、育てている農作物はどのような違いがあるだろうか。

相互の関連 武器をもつ人々や変化した背景に着目しよう

p.90～91の「⑥室町時代」や、「②安土桃山時代」、「⑧江戸時代」で、武器をもっている人々や変化したことは、統一政権の誕生とどのように関連しているだろうか。

↑p.159

「歴史的な見方・考え方」を働かせる工夫

「歴史的な見方・考え方」を働かせる考察できる「地図帳活用」アイコンや「技能をみがく」を設置しています。

ポイント

技能をみがく

「歴史的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的・基本的な「技能」を習得できるよう、「技能をみがく」を全14テーマ設置しています。

技能をみがく 4 年表のつくり方・地図のつくり方

年表のつくり方

- ①何の年表をつくるのか、題材とタイトルを決める。
- ②どの年代からどの年代までを年表にするのか、時期の長さを決める。
- ③年代を書き入れる場所を決める。
- ④年代の場所に年代を書き入れ、出来事・出来事の原因、その年に起こった出来事を書き入れる。

地図のつくり方

- ①示したい場所やルート、領域に合わせて、地図の範囲を決める。
- ②必要な都市や場所を、地図上に書き入れる。
- ③道路などがある場合は、ルートを地図上に書き入れる。
- ④領域や国の範囲などを囲んで色を塗る。

調べてみよう!

「調査で分かったこと・気になったこと」をもとに、年表の()に出来事を入れよう。

年表	四ツ谷用水に関する出来事	日本の動き
1600年		徳川家康が關原の戦いで勝利する
1610年	伊達政宗が仙台城に城下町の建設を始める	江戸時代
1613年	仙台城下に多くの人が暮らし、人口が増える	江戸幕府ができる
1614年	大曲の藩邸が完成する	
1615年		参勤交代の制度が始まる
1617年	4代藩主頼朝の命で、四ツ谷用水が完成する	

調べてみよう!

「調査で分かったこと・気になったこと」をもとに、年表の()に出来事を入れよう。

やってみよう!

地図のなかに、四ツ谷用水の本流の経路を赤色で書き入れよう。

調査で分かったこと・気になったこと

- 四ツ谷用水は、江戸時代初期に、仙台藩の代官・伊達政宗が命じてつくられ、1617年に工事が始まったといわれている。
- 仙台藩の城下町は川よりも高い位置に土地があり、城下町へ水を運ぶために、町から離れた標高の高い土地で水を貯り入れ、城下町へ水を運ぶ四ツ谷用水が完成した。
- 明治以降、使われなくなったのはなぜ?

解説 四ツ谷用水は水車の技術がなかったことにより、堰が崩壊したため、水道ができたことで、下水道の役割へと変化したといわれている。

やってみよう!

地図のなかに、四ツ谷用水の本流の経路を赤色で書き入れよう。

年表のつくり方・地図のつくり方

学習の内容を年表や地図でまとめる技能を身に付けられるようにしています。各時代の学習に入る前の第1章第2節「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」に設置しています。

←p.11

技能をみがく 11

資料をもとに、当時の人々の考え方を理解する

当時の人々の考え方は、現在の私たちと同じとは限りません。当時の人々の考え方を理解するには、当時の人々の言葉などの資料をもとに、当時の政治や社会の特色を踏まえて、当時の人々になったつもりで考えることが大切です。

←p.157

資料をもとに、当時の人々の考え方を理解する

歴史的な事象を考察する際に、現在の視点だけでなく、当時の人々の視点に立って考える技能が身に付けられるようにしています。当時の政治や特色を踏まえて自らの考えを表現する、第4章「アクティブ歴史 赤穂事件を考察する」(p.156-157)に設置しています。

「技能をみがく」掲載ページ一覧(全14テーマ)

ページ	タイトル
p.7	年代や時代を結びつける
p.8	情報の集め方
p.10	野外・聞き取り調査のしかた
p.11	年表のつくり方・地図のつくり方
p.13	レポートのまとめ方、発表のしかた
p.35	複数の資料をもとに類推する NEW
p.39	系図の見方
p.40	しくみ図の見方
p.56	絵巻物の見方
p.77	理由を考えながら資料を読み取る NEW
p.157	資料をもとに、当時の人々の考え方を理解する
p.205	当時の立場になって選択し、判断する
p.249	歴史的な背景を踏まえて、問題の解決を考える
p.267	情報の意図を読み解く

ポイント

地図帳活用 地図帳活用 NEW

日々の学習で地図帳をより活用できるよう、「地図帳活用」アイコンを全28か所設置し、活用を促しています。地理的背景を踏まえて歴史学習をより深められるようにしています。

中学生の歴史p.69「源平の争乱」を例に

教科書p.69で学習する「源平の争乱」において、おもな合戦地となった場所や「源義経の進路」を、地図帳を活用することで地名や地形とともに確認できます。

↑p.69

↑6 源平の争乱 地図帳活用

→地図帳p.93-94

「地図帳活用」掲載ページ一覧(全28か所)

ページ	タイトル	ページ	タイトル
p.18	③世界各地の文明と栽培植物の伝わった方向	p.140	③江戸時代の交通
p.25	⑤宗教の誕生と広まり	p.145	④「おくのほそ道」で芭蕉が旅した道とよんだ句
p.31	⑦日本各地に広がる縄文・弥生時代の交易	p.170	②アメリカ合衆国の領土の拡大
p.33	⑦5世紀の東アジア	p.177	④北方の調査
p.39	⑥6世紀末～7世紀初めの東アジア	p.187	③廃藩置県
p.41	④7世紀の東アジア	p.195	④明治初期の日本の国境と外交
p.69	⑥源平の争乱	p.197	⑤北海道の地名の由来
p.87	⑤14～15世紀の東アジア	p.215	⑥八幡製鉄所の位置
p.94	②主一揆	p.229	⑥第一次世界大戦中のヨーロッパ
p.96	③応仁の乱による京都の被害	p.260	④満蒙開拓団の分布と都道府県別満州移民
p.100	⑫文化が栄えた主な都市	p.264	①アジアと太平洋での戦争
p.129	④四つの窓口と朝鮮通信使のたどった道	p.282	①第二次世界大戦後の世界
p.138	④利根川の流路の変遷	p.285	④日本の戦後の国境
p.139	⑧各地の主な特産物	p.299	⑤主な紛争・テロと地域統合

社会科3分野共通の特色

① 3分野の連携を図った10のポイント

社会科3分野(地理・歴史・公民)での連携や、小学校との連携を図っています。「小・地・公」アイコンを設置したり、「小学校・地理・公民・他教科との関連」コーナーで関連する学習事項を提示したりしています。

① 主体的・対話的な学びを促す「導入」

▶写真やイラストを効果的に使った導入を設けています。興味・関心を高めるだけでなく、これから学ぶ内容を見通すことができます。

本資料p.5-10、29、32

歴史 ↓「タイムトラベル」
教科書p.134-135など



地理 ↓「写真で眺める」
教科書p.64-65など



公民 ↓「学習の前に」
教科書p.116-117など

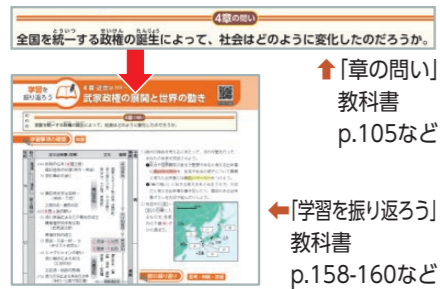


② 見通し・振り返りがしやすい単元構成

▶単元の最初に設置している「章・節の問い」で学習の見通しを立て、章・節末の「学習を振り返ろう」で単元の振り返りができます。見通し・振り返り学習を積み重ねることで「章・節の問い」にせまれるよう、「問い」を構造化しています。

本資料p.29-38

歴史



↑「章の問い」
教科書 p.105など

←「学習を振り返ろう」
教科書 p.158-160など

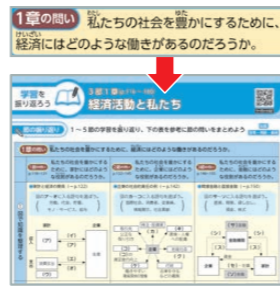
地理



←「節の問い」
教科書 p.48など

←「学習を振り返ろう」
教科書 p.62-63など

公民



←「章の問い」
教科書 p.117など

←「学習を振り返ろう」
教科書 p.174-177など

③ 「主体的・対話的で深い学び」を促す「アクティブ」

▶設定されたパフォーマンス課題について、単元の学習を生かして考察し、他者との意見交換を通して学びを深めることができます。

本資料p.39-40

歴史 ↓「アクティブ歴史」
教科書p.156-157など



地理 ↓「アクティブ地理」
教科書p.281-282など



公民 ↓「アクティブ公民」
教科書p.166-167など



④ 毎時間の学習における「問い」

▶章・節の「問い」を受けて、本文ページには「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」を設置し、学習の到達点を毎時間確認できます。

本資料p.30-31、33-34

歴史

本文ページ
教科書p.148-149など

地理

本文ページ
教科書p.50-51など

公民

本文ページ
教科書p.134-135など

⑤ 「見方・考え方」を働かせる工夫

▶「深い学び」のカギとなる「見方・考え方」は、本文ページや章・節末の「学習を振り返ろう」など、さまざまな箇所でも働かせることができます。

本資料p.49-50

歴史

教科書
巻頭8、p.159など

地理

教科書
巻頭8、p.78など

公民

教科書
巻頭8、p.18-19

⑥ 防災意識を育む工夫

▶地理では災害の要因となる現象、歴史では災害の経験、公民では災害に対する行動を扱い、防災意識を育めます。

本資料p.41-42

歴史

「未来に向けて
自然を生かした信玄堤」
教科書p.97など

地理

「日本の
地域的特色」
教科書p.146-151など

公民

「防災備蓄倉庫の新
設を考えてみよう」
教科書p.16など

⑦ 我が国の領土への理解を深める工夫

▶地理では日本の領域の範囲、歴史では領土画定の経緯、公民では国としての対応を扱い、日本の領土について正しく理解できます。

本資料p.64、67

歴史

「日本の領土画定と
近隣諸国」
教科書p.286-287など

地理

「日本の領域と
その特徴」
教科書p.18-19など

公民

「領土をめぐる
取り組み」
教科書p.186-187など

⑧ 地図の活用を促す工夫

▶「地図帳活用」を設置し、活用場面がよりわかりやすくなっています。また、豊富な地図の読み取りを通して、空間認識能力を高めます。

本資料p.52

歴史

教科書
p.69など

地理

教科書
巻頭10、p.226
など

公民

教科書
p.186-187など

⑨ 小学校・他分野との関連を図る工夫

▶小学校や他分野の学習事項を生かせるよう、問いの文章を工夫したり、アイコンや側注で既習事項を提示したりしています。

本資料p.29、67

歴史

小地公

小学校・地理・公民・他教科との関連

地理

小歴公

小学校・歴史・公民・他教科との関連

公民

小地歴

小学校・地理・歴史・他教科との関連

⑩ SDGsへの意識を育む工夫

▶「未来に向けて」では、地理では地域の事例、歴史では過去の経験、公民では自らが考える課題として、SDGsについての理解が深まるようにしています。

本資料p.41-42、55-56

歴史 ↓「未来に向けて
よりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



地理 ↓「未来に向けて
よりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



公民 ↓「未来に向けて
よりよい社会を目指して」
教科書 巻頭1-2



社会科3分野共通の特色

②学習がより深まる他分野および地図帳との連携 ～「未来に向けて」を活用して～

「未来に向けて」は、未来の社会をつくる取り組みを紹介するコラム・特設です。地理・歴史・公民共通で設置しており、分野をまたいで学習を深めたり、多面的・多角的な見方を養えたりします。このページでは「環境保全」をテーマに、中学校社会科でどのように学びを展開していけるか一例を示しています。

1・2年生


3年生

未来に向けて 脱炭素社会に向かうヨーロッパ 環境・エネルギー

ヨーロッパでは、脱炭素社会(→p157)に向けた取り組みが数多くみられます。再生可能エネルギーの導入をはじめ、環境への負荷が小さい鉄道の利用促進、電気自動車の普及に向けた充電スタンドの設置などがみられます。

2018年ごろからは、ヨーロッパの各地で、多くの人が参加し、政府に対して気候変動への対策を訴えかける運動も活発になっています。脱炭素社会の実現のためには、それを支える技術革新やしくみづくりとともに、個人がもつ意識の変化も重要となってきます。


→4 フランスのパリに向かう国際夜行列車に乗り込む人々(オーストリア、ウィーン、2021年) 航空機や自動車に代わる長距離の移動手段として、夜行列車の利用が見直されています。



↑地理的分野 p.75

未来に向けて 江戸のごみを利用した農業 環境・エネルギー

江戸時代半ば、砂村(現在の東京都江東区)では、野菜の促成栽培が行われました。江戸の町から出たごみを堆積し、発酵の際に出る熱を利用して早めに種をまくことで、早めの収穫を行いました。砂村の野菜は、初物好きの江戸の人々の間で大人気となり、高値で取り引きされ、ブランド野菜として将軍への献上品にもなりました。また、砂村のねぎやきゅうり、にんじんなどの野菜の品種は各地で栽培されるようになりました。



→9 砂村の品種から生まれたねぎ

↑歴史的分野 p.155

未来に向けて 環境保全への取り組み 環境・エネルギー

1 **ごみの焼却炉から金・銀を回収(神奈川県相模原市)**
神奈川県相模原市は、2021年度の1年間に一般ごみとして捨てられた電子機器などから、金・銀それぞれ約15kgを回収することに成功しました。市内の焼却炉では、高温に熱されたごみを用いて、ごみを高熱処理しています。ごみの多くはガスとなって排気しますが、電子機器の基板などに含まれる貴金属は燃え残り、焼却炉の底にたまっていきます。相模原市は3年前から焼却炉メーカーと共同で、この焼却炉の底から金・銀を回収する技術を研究してきました。その結果、21年度に回収した金・銀は約1億3000万円分となり、回収費用約1億円を差し引いて、約3700万円の収益を上げました。収益は清掃工場の維持費や環境啓発活動などに使われています。

2 **日本最大級の電力消費企業の脱炭素への挑戦(三重県四日市市)**
三重県四日市市で創業したA社は、全国に約2万店舗を展開し、日本全体の電力の約1%を消費する日本最大級の電力消費企業です。A社は2018年に脱炭素に向けた計画を定め、店舗で排出する二酸化炭素などを50年までに総量でゼロにするという目標を掲げました。また、中期目標として30年までに店舗の使用電力の50%を再生可能エネルギー(→p.198)に切り替えるとしています。A社は二酸化炭素排出量の約9割が電力によるもので、省エネルギー設備を導入して使う電力を減らしたり、太陽光パネルを設置して再生可能エネルギーへ転換したりすることで、目標の達成を目指しています。また、電力会社と連携して個人の家庭で発電された電気を買い取り、買い物に使えるポイントで還元するしくみも導入しています。20年には使用電力のすべてを再生可能エネルギーで賄う店舗も誕生しました。

NEXT2030へのヒント 2030年のSDGs達成とその先を目指して

私たちの生活は多くのモノやエネルギーを消費して成り立っています。モノやエネルギーを安定的に確保することは、豊かな社会を維持していくためには不可欠です。しかし、人々の経済活動の拡大によって、地球温暖化などの地球環境問題が広がっており、大量消費を前提とした社会は持続可能とはいえなくなっています。これからは、地域社会や地球環境へ与える影響も考慮しながら、モノやエネルギーをどのように作り、使い、処分するかを考えていく必要があります。私たち消費者もひとりでなく、ふだんの生活や消費活動を見直していくことが大切です。



公民的分野

未来の社会をつくる行動を考える

公民的分野の学習では、環境保全のために行われている取り組みと、今後の展望を「NEXT2030へのヒント」で取り上げています。「環境保全への取り組み」では、自治体と企業の取り組みを紹介しつつ、消費者も普段の生活や消費活動を見直すことが大切だと結んでいます。環境保全を「自分ごと」として捉え、自分たちにできる取り組みを考えさせることができます。

自分たちにできる取り組みについて、地理や歴史の学びをヒントに考えることができます。

←公民的分野 p.178

地理的分野

現状を学ぶ・地域の事例を学ぶ

地理的分野の学習では、環境保全のために世界・日本で行われている取り組みを紹介しています。「脱炭素社会に向かうヨーロッパ」では、環境負荷の小さい移動手段として、夜行列車の利用が見直されていることを紹介しています。

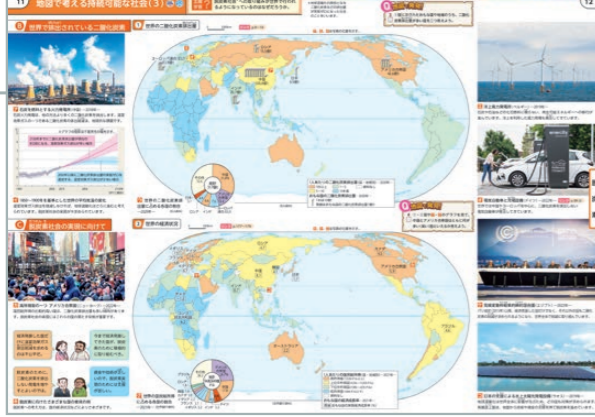
歴史的分野

過去の取り組みを学ぶ

歴史的分野の学習では、環境保全のために過去に行われていた取り組みを紹介しています。「江戸のごみを利用した農業」では、ごみを発酵させるときに発生する熱で野菜の促成栽培が行われていたことを紹介しています。

地図帳

地図帳は各分野で幅広く活用できる社会科共通の教科書です。地図帳p.11-12では脱炭素社会の実現に向けた取り組みに関するさまざまな資料を掲載しています。各分野の学習で活用することで、より学びを深めることができます。

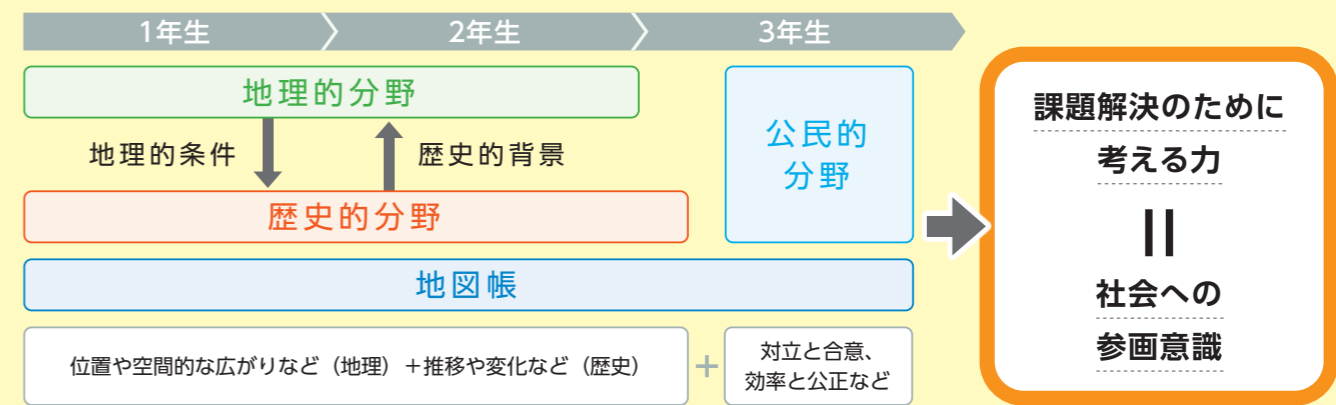


↑地図帳 p.11-12

ポイント

分野間連携の必要性

下の図のように、中学校社会科は地理と歴史を関連付けながら学び、その蓄積を踏まえて公民の学習がある構造になっています。そのため、どの分野においても教科全体を見通したカリキュラム・マネジメントが必要です。



1年生 → 2年生 → 3年生

地理的分野 (地理的条件) ↔ 歴史的分野 (歴史的背景)

公民的分野

地図帳

位置や空間的な広がりなど(地理) + 推移や変化など(歴史) + 対立と合意、効率と公正など

課題解決のために
考える力
社会への
参画意識

帝国書院の教科書では、単元構成・紙面構成を統一し、コラムや特設なども共通にすることで、カリキュラム・マネジメントをサポートしています。これにより、分野をまたいだ深い考察や多面的・多角的な見方を養うこともできます。

共通の特色

学習がより深まる他分野および地図帳との連携

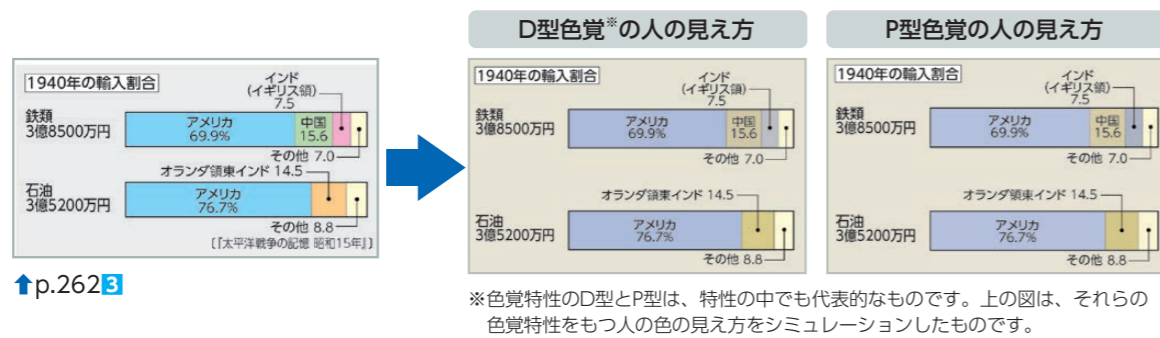
サポート

① インクルーシブ教育への対応

すべての生徒が使いやすいよう、ユニバーサルデザインに基づいた編修をしています。

① カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

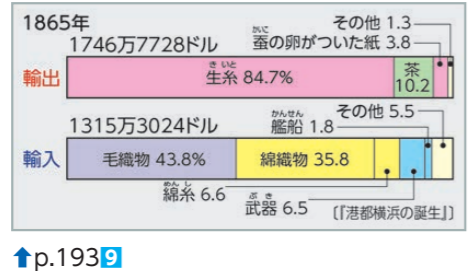
すべての生徒にとってグラフや資料が読み取りやすいよう、色覚特性をもつ人が同じように見えやすい色づかいに配慮したり、境界線を黒ではっきりと書いていたりしています。



② インクルーシブ教育に配慮した表現

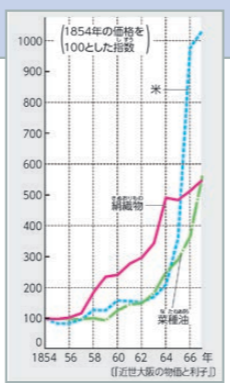
帯グラフ

どこまでが同一の資料であるのか判別しやすいよう、図の周囲をグレーで囲んでいます。右の図の場合、2つの帯グラフが1つの資料を構成していることがわかります。また、引き出し線の起点を明確にするため、黒点で表現しています。



折れ線グラフ

グラフが読み取りやすいよう、折れ線を太くし、背景を白色にしています。



③ 誤読を防ぐ読みやすい文字

誤読を防ぎ、すべての生徒にとって読みやすくなるよう、見開きタイトル、本文、図版タイトルなどにはユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用しています。

非UDフォント: 行われています。

UDフォント: 行われています。

●文字の細い部分を太くして、見えやすくする。
●紛らわしい画線をやめ、シンプルなデザインにする。
●濁点部分のすきまを十分確保して視認性を高める。
特に濁点のあるふりがなが読みやすくなっています。

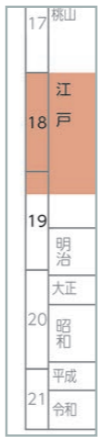
非UDフォント: 1946年11月3日

UDフォント: 1946年11月3日

●文字と線が判別しやすい。
特に数字の「9」と「6」の区別や、数字の「3」とアルファベットの「S」などの判別がしやすくなっています。

④ 学習単元がわかる工夫

現在学習しているのがどの章なのか一目でわかるよう、章ごとに色をわけています。
紙面の右端には年表インデックスを設け、学習している時代に章の色を示しています。



⑤ 学習が進めやすい工夫

レイアウトの違いによる生徒の混乱を防ぐため、導入資料や学習課題、振り返りの設問を各ページの同じ場所に配置し、見開きのレイアウトを原則統一しています。
見通し・振り返りがしやすいよう、「導入資料、学習課題(見通し)→本文→確認しよう、説明しよう(振り返り)」で見開きの展開を統一しています。

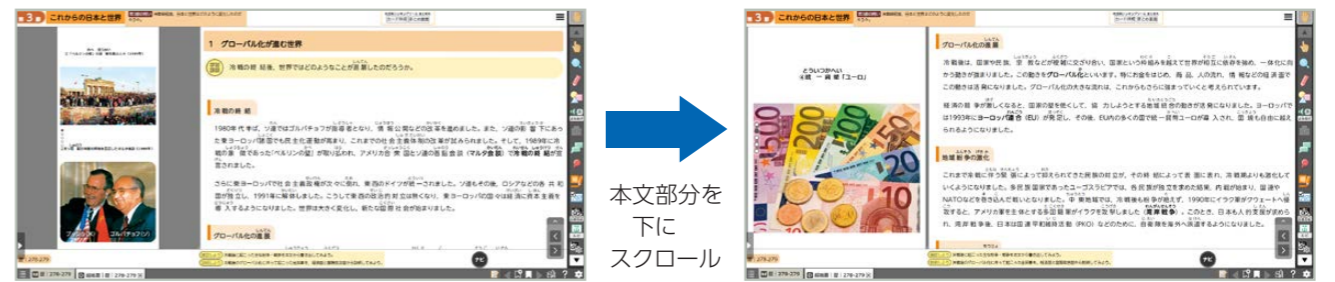
詳しくは本資料p.33-34

インクルーシブ教育のためのデジタル教科書の機能

超紙面

NEW

学習用端末での閲覧に最適化されたWeb紙面です。2画面表示で左面が図版、右面が本文となっており、ユーザーが幅を自由に変更できます。また、右面の教科書本文の表示に合わせて、左面には本文に対応した図版が表示されます。本文や資料を大きく見やすく表示させ、関連性をつかみながら学習できます。



↑図版は左面、本文は右面に表示されます。 ↑右面の本文の内容に連動して、左面の図版が表示されます。

「超紙面」機能のほかに、総ルビや白黒反転、読み上げ機能を搭載しています。

その他のデジタル教科書の機能は本資料 p.61-62

→総ルビと白黒反転機能で表示した紙面



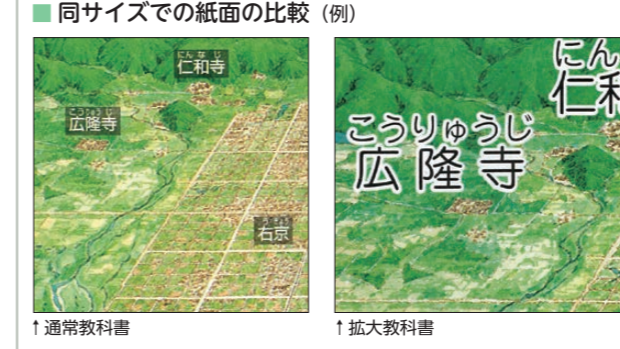
特別支援教育のための教科書と地図帳

『拡大教科書』(無償給与対象)

文字や資料を大きく目立たせ、レイアウトを見やすく改善しています。

ページ数の比較 (令和3年度版中学校用歴史教科書の場合)

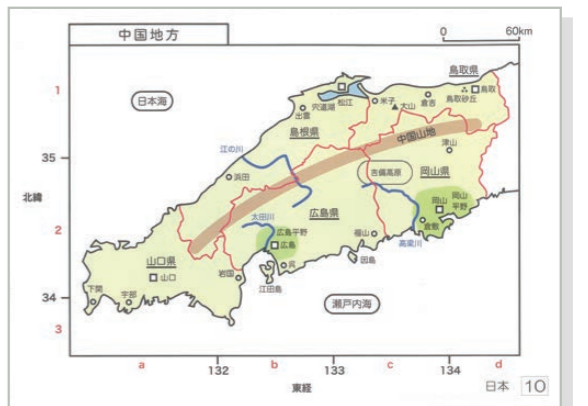
通常教科書	拡大教科書 (7分冊)
全310ページ	全3,020ページ



『みんなの地図帳 ~見やすい・使いやすい~ 初訂版』(有償)

記載内容を大幅に精選し、見やすくなるよう工夫しています。

日本視覚障害社会科教育研究会編集、帝国書院発行



サポート

教師用指導書

サンプルはこちら



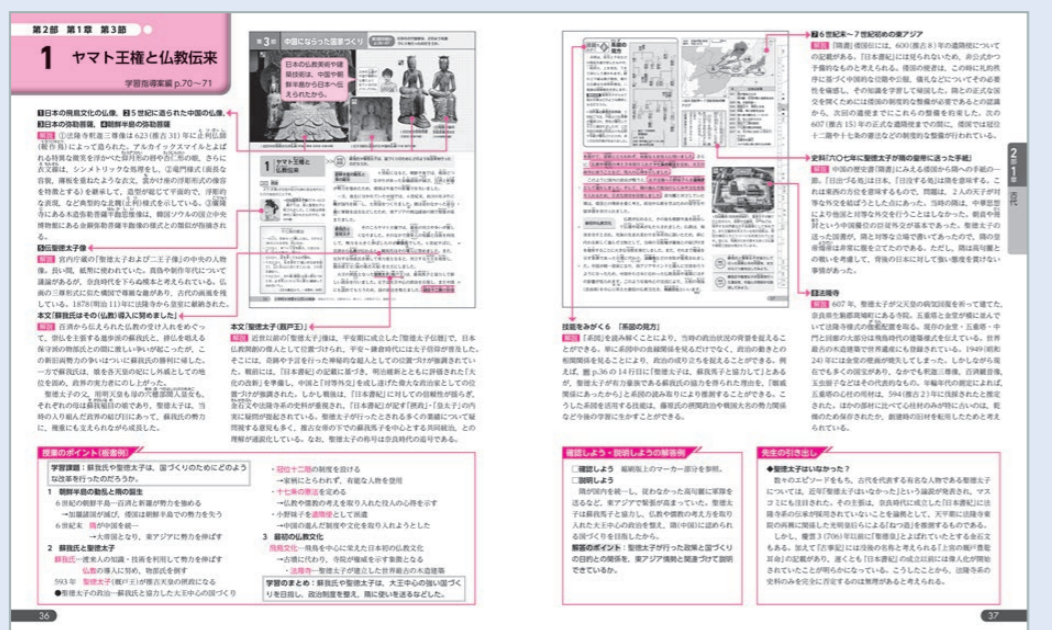
https://www.teikokushoin.co.jp/jhs/07shidouso/

紙媒体で提供する教科書解説編と指導・評価編、およびコンテンツをダウンロードして使う指導書Webサポートの3点セットで、毎日の授業をサポートします。

※各コンテンツの名称は、変更になる可能性があります。

指導書(教科書解説編)

教科書紙面の縮刷版を中心に置き、まわりに教科書の解説や授業のポイント(板書例)、「確認しよう」「説明しよう」の解答例などを掲載しています。



→本文ページのイメージ(画像は令和3年度版)

指導書(指導・評価編)

大改訂

年間指導計画案、単元構成案、授業展開案や評価規準例を掲載しています。デジタル教科書・教材を活用した展開案も掲載しています。



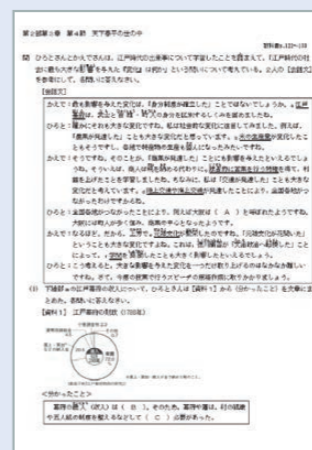
↑単元構成案のイメージ

↑授業展開案のイメージ

指導書Webサポート

評価問題(テスト例)

定期考査作成の参考にできます。各問に「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価観点を付しているため、評価の参考にもなります。地理・公民の評価問題(テスト例)も利用できます。



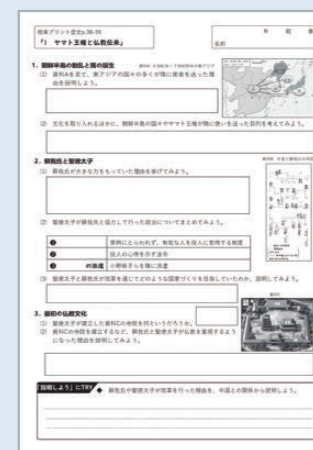
学習の見直し・振り返りシート

章・節ごとの見直しを立て、最後に振り返ることができるプリントです。単元の学習の前と後で、生徒の考えがどのように変容したか見取ることができ、評価につなげることができます。



授業プリント

全単元に対応しています。授業だけでなく、生徒の自学自習にも活用できます。



「学習を振り返ろう」ワークシート

「学習を振り返ろう」ページに準拠したワークシートです。知識の確認から、「章・節の問い」に対する考えをまとめられます。



NEW 「アクティブ歴史」ワークシート

「アクティブ歴史」ページに準拠したワークシートです。課題に取り組みやすくなり、「主体的・対話的で深い学び」を実践できます。



「タイムトラベル」ワークシート

「タイムトラベル」をさらに深められるワークシート(全12時代分)です。各時代の学習の前後で学習の見直し、振り返りや評価ができます。

教科書掲載図版

教科書に掲載されている図版を、カラーとモノクロの2種類収録しています。授業プリントや定期考査の作成に活用できます。

※その他、年間指導計画案も収録しています。 ※一部画像は現行のものです。

サポート

③ デジタル教科書・教材

体験版はこちら
(2024年5月以降
お試しください。)



https://ict.teikokushoin.co.jp/07jh_campaign/trial/index.html

一斉授業から「個別最適な学び」と「協働的な学び」まで、生徒の学びをトータルサポートします。

※各機能やコンテンツの名称は、変更になる可能性があります。

① 学習者用 デジタル教科書

- 紙の教科書と同一の内容を収録。
- 拡大・縮小や書き消し、保存などの基本機能は標準装備。
- 特別支援機能を搭載。

② 学習者用 デジタル教科書+教材

- ①の機能はすべて収録。
- 教科書に準拠したコンテンツ集を収録。
- さらに、学習者用の新たな学習ツールや注目コンテンツも収録。

③ 指導者用 デジタル教科書(教材)

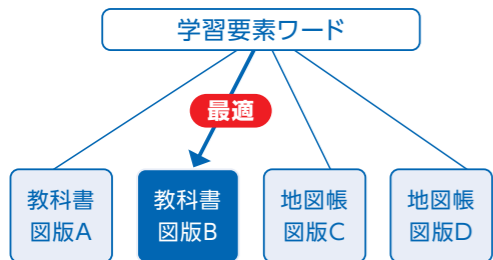
- デジタル教科書とデジタル教材の一体型。
- 特別支援機能を搭載。
- さらに、デジタル教科書+教材を活用した授業をサポートする授業支援ツールも収録。
- 教師用指導書(本資料p.59-60)と指導者用デジタル教科書(教材)のセット版も用意。

学習ツール NEW ~「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させる新機能~

学びコネクト

~学習要素ワードの検索機能~

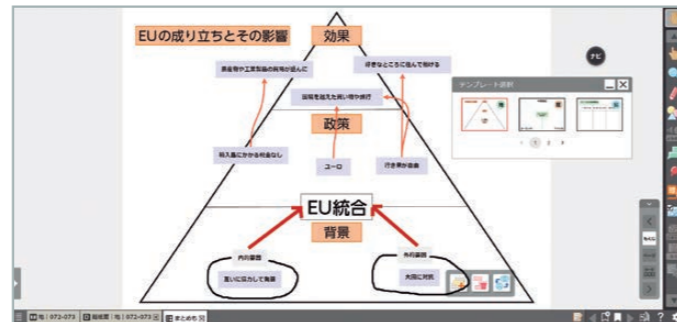
教科書の重要語句(=学習要素ワード)を検索すると、関連する紙面や図版を分野を超えて閲覧できる機能です。書目間連携が可能となり、複数の資料から生徒が主体的に学習に適した資料を選択することができます。



まとめも

~社会科思考ツール~

教科書本文から語句を抜き出して、オリジナルの思考ツールにまとめることができる機能です。自分の考えを整理・構造化し、他者との意見交換を踏まえて再調整することができます。



各分野の注目コンテンツ NEW ※ これらのコンテンツは②と③に収録されます。

<h4>地図帳</h4> <h5>主題図コンテンツ</h5> <p>各州や各地方の主題図を「分ける」「比べる」「重ねる」の3つの手法で、さまざまな視点から読み解くことができます。</p>	<h4>地理</h4> <h5>写真で発見！世界の気候</h5> <p>世界の気候の特徴を写真や雨温図から読み解くことで、気候の概念とその分布について楽しく学べます。</p>	<h4>歴史</h4> <h5>タイムトラベル名探偵！</h5> <p>教科書に収録されている「タイムトラベル」を3D復元。各時代の特徴を没入感をもって楽しく学べます。</p>	<h4>公民</h4> <h5>ぱんSim ~パン屋さん経営大作戦~</h5> <p>『社会科 中学生の公民』に収録されている「パン屋さんをつくらう」をシミュレーションゲーム化。企業や経営について楽しく学べます。</p>
---	---	--	--

授業支援ツール

~学習者用デジタル教科書+教材との連携で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をサポート~

① デジタル教科書 章・節まとめ案 NEW

思考ツールを活用したデジタル教科書オリジナルのまとめ案や評価規準案などを用意しています。

② デジタル版 学習の見通し・振り返りシート NEW

教科書に記載されている学習課題・確認しよう・説明しようの内容をGoogle Workspaceの機能で生徒が回答し、先生が集約できます。

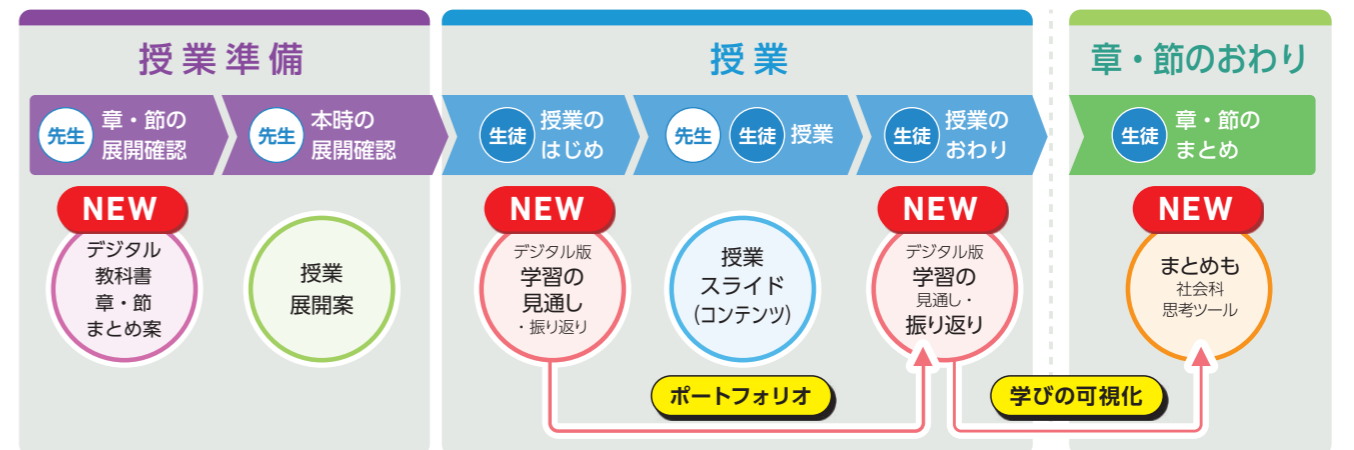
③ 授業スライド

1時間の授業展開を10枚程度のスライドにまとめているので、デジタル教科書を活用した授業をすぐに始められます。

教師用指導書と共通 詳しくは本資料p.59-60

④ 単元構成案 ⑤ 授業展開案

〈学習者用デジタル教科書+教材と授業支援ツールを活用した授業展開イメージ〉



おもな指導者用・学習者用共通コンテンツ

レイヤー切り替え

教科書図版の表示要素を任意で選んで表示できます。

動画コンテンツ

NHKエンタープライズと共同制作したデジタル教科書オリジナル動画を数多く収録しています。

タイムトラベルコンテンツ

教科書の「タイムトラベル」の各時代をつなげて表示したり、イラストの解説を確認したりできます。

巻物コンテンツ

教科書では一部をトリミングして掲載している図版の、全体を表示できます。

特色一覧

①教育基本法との対応

下表のExcelデータは
こちら



教育基本法第二条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
全 体	<p>問いを軸にした単元構成の構造化によって、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 章・節・各本文ページ冒頭には、学習内容を問い(「章・節の問い」「学習課題」)で示し、生徒自らが学習の見通しを持てるようにしている。章・節・各本文ページの末尾には課題(「学習を振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」)を設けている。問いには、協働的に学習する場面を設け、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしている。 ● 学習活動では、3つの資質・能力を特に育成する場面を設けることで、学習を見取ることができ、3つの観点に基づいた「指導と評価の一体化」が実現できるようにしている。 	おもに 特色3 p.29-40
第一号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<p>時代像イラストや理解しやすい本文、ビジュアルな資料により、意欲的に学びに向かう態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大きなイラストで各時代の社会の様子を概観する特設「タイムトラベル」を、各時代のはじめに設け、イラストの読み解きや「歴史的な見方・考え方」を働かせる活動を通じて、当時の社会への興味・関心を高め、学びに向かう意欲を喚起できる。(p.26-27、36-37、52-53、64-65、90-91、114-115、134-135、184-185、236-237、250-251、276-277全12テーマ) ● 日本と世界のつながりが重視される時代では、特設「世界とのつながりを考えよう」を設け、ワイドなイラストと世界地図を通じて外国の歴史や文化に興味・関心を高め、学習に向かう意欲を喚起できる。(p.44-45、50-51、78-79、110-111、168-169、172-173全6テーマ) ● 巻頭「歴史的な見方・考え方」では、学習指導要領で示された「歴史的な見方・考え方」を、例を用いて紹介し、学習上での働かせ方を確認・整理できる。(巻頭8) また、「見方・考え方」アイコンを「タイムトラベル」や「学習を振り返ろう」などに設け、生徒の思考力を養うことができる。(p.135、159、169など全28か所) ● 全体を通して、時代の特色がわかる写真や資料を豊富に掲載し、歴史的な背景がわかる丁寧な記述にすることで、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるようにしている(全編) 	おもに 特色1 p.5-22 および p.49-52
第二号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<p>資料を活用する活動や思考を深める活動を通じて、自主・自律の精神をもって創造に取り組む資質を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「技能をみがく」では、資料や図表の見方といった基礎的・基本的な技能に加え、調査の方法や多面的・多角的に分析する力を習得できる。(p.11、157、205など全14か所) ● 巻頭9「考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～」では、学習で有用な思考ツールを紹介している。特設「アクティブ歴史」のパフォーマンス課題や「学習を振り返ろう」の単元のまとめの活動では、思考ツールを多用しており、実際の学習活動を通じて、考えを深めることができる。(巻頭9、p.204、159など) ● 「人物コラム」では歴史上の人物たちの主体的な取り組みや、当時の社会的課題へのアプローチを学ぶことによって、自主・自律の精神を養うことができる。(p.197、249、297など全49か所) 	おもに 特色2 p.23-28 特色3 p.29-40 特色5 p.45-48 および p.49-52 p.57-58

教育基本法第二条	特に意を用いた点や特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
	<ul style="list-style-type: none"> ● インクルーシブ教育に配慮し、誰でも読み取りやすい書体(ユニバーサルデザインフォント)や色調を導入することで、さまざまな特性をもつ生徒の価値を尊重して、その能力を伸ばせるようにしている。(全編) ● 二次元コードを随所に設置し、授業以外においても生徒が自主的に活用できる。(巻頭6、裏表紙など全64か所) 	おもに 特色2 p.23-28 特色3 p.29-40 特色5 p.45-48 および p.49-52 p.57-58
第三号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<p>資料をもとにして議論を行う活動や現代社会の諸課題を考察する活動を通じて、社会参画に向けた態度と資質を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パフォーマンス課題を設定した「アクティブ・ラーニング型の授業」を行える「アクティブ歴史」では各種資料をもとにした対話的な学習を通じて、主体的・対話的で深い学びを実現できるようにしている。特に近代以降では、当時の社会で見られた課題について、さまざまな資料や意見を比較・選択する活動を通して、社会の多様性を理解するとともに、自他の敬愛と協力を重んじ公共の精神に基づく正義感や責任感を養える。(p.34-35、76-77、156-157、204-205、248-249全5か所) ● 「学習を振り返ろう」で「『これからの社会を構想しよう』への準備」を設け、各時代の特色と現代社会の諸課題を関連付ける活動ができる。(p.62、104、160、226、274、306全6か所) また、最終単元「これからの社会を構想しよう」では、これらの活動を整理した上で現代社会の諸課題について解決策を考えることで、歴史的な背景を踏まえた、社会参画への態度を養える。(p.307-309) 	おもに 特色3 p.29-40 特色4 p.41-44
第四号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<p>人権や環境・エネルギー、防災などに関する過去の取り組みについて豊富に掲載し、持続可能な開発目標(SDGs)の意義への理解を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能な開発目標(SDGs)と歴史の関連を意識できる「未来に向けて」を、特設で2か所、コラムで63か所設け、人権獲得に向けた取り組みや、過去に行われた環境保全、自然災害への対策などについて積極的に取り上げている。歴史上のさまざまな取り組みを知ることで、SDGsへの理解が深まるように配慮している。(p.39、49、93、巻末2など全65か所) 	おもに 特色4 p.41-44
第五号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<p>各時代の地域の営みや政治・経済と結びついた文化を豊富に紹介し、日本の伝統と文化への理解を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特設「歴史を探ろう」、コラム「地域史」では、歴史の主要な舞台とは異なる地域事例を紹介し、各地の文化や産業の理解を促し、当時の社会の様子についてさまざまな視点で捉えることができる。(「歴史を探ろう」：p.82-83、216-217、260-261など全11か所/「地域史」：p.112、148、201など全16か所) ● 各時代の文化史を、原則1単元4ページにわたって紹介し、文化財などの写真を豊富に掲載している。また、政治・経済と文化を結びつけた本文から、歴史的な背景を踏まえて、日本の伝統と文化への理解を深めることができる。(全編) ● 日本と世界のつながりが重視される単元に、特設「世界とのつながりを考えよう」を設け、日本の歴史に関連する世界の動きを理解することで、国際的な視野に立って自国の風土や特色を捉えることができる。(p.44-45、50-51、78-79、110-111、168-169、172-173全6か所) ● 古代から現代まで、琉球とアイヌ民族について記述することで、独自の歴史や文化への理解を、尊重する態度を養える。(p.88-89、130-131、196-197など全13か所) ● 「歴史を探ろう 日本領土画定と近隣諸国」では、近隣諸国との歴史的経緯を丁寧に記述し、それに関する開国以来の日本政府の取り組みが国際法に則ったものであることが理解できる。(p.286-287) 	おもに 特色1 p.5-22 特色2 p.23-28

特色一覧

②検討の観点から見た内容の特色

下表のExcelデータは
こちら



観点	観点の内容	『社会科 中学生の歴史』の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
教育基本法	教育基本法との対応が十分にはかかれているか。	●教育基本法第一条の目標および教育基本法第二条第一～五号に示された内容について、 社会科の目標や学習内容に沿った指導を効果的に行うことができるように構成されている。	おもに p.63-64
学習指導要領への対応	学習指導要領の目標・内容の趣旨に沿ったものであるか。	●単元構成は、学習指導要領の目標・内容に沿って構成されている。「むくじ」[教科書を活用した学び方]では、 単元構成と学習内容、各種コーナーの意図や役割が一望でき、学習の位置づけや見通しがつかみやすいように工夫されている。 また、「歴史的分野の学習の全体像」では、小学校や他分野との関連を含めて、学習全体を見わたせるようになっている。(巻頭3-7) ●「章扉」、時代の特色が一望できる「タイムトラベル」、章・節ごとの単元を貫く問い、歴史の流れがわかる本文、単元最後の「学習を振り返ろう」のように、 単元が構造化され、見直し・振り返りに基づいた単元の学習を確実に実践できるように工夫されている。 ●「 歴史的な見方・考え方 」を整理したページを設けて、歴史的分野の全体を通して鍛えていく「見方・考え方」が、わかりやすく説明されている。「タイムトラベル」や「学習を振り返ろう」では作業課題などで「歴史的な見方・考え方」を動かせることを促し、社会的事象を多面的・多角的に考える力が身に付けられる。(巻頭8、p.90-91、158-160など) ●知識が確実に習得できるよう丁寧な本文とし、本文の理解を促す資料を適宜設置している。また、基礎的な技能が身に付く「技能をみがく」コーナーが随所に盛り込まれ、 公民としての資質・能力の基礎を育成できる よう配慮されている。 ●「 世界とのつながりを考えよう 」を設置しており、世界と日本とのつながりがよりわかりやすくなるように整理・工夫されている(p.44-45、50-51、78-79、110-111、168-169、172-173)。世界の古代文明の記述や世界地図が充実し、日本への影響や関連がわかるように工夫されている。(p.40-41、44-45、46-47など)	おもに 特色1 p.5-22 特色2 p.23-28 特色3 p.29-40 および p.49-52
内容の配列・分量・程度	全体の分量は、年間標準時数から見て適切か。各単元の配当時数は適切か、系統性が考慮されているか。	●1見開き1単位時間(以下、時間)の授業が想定され、学習課題が明確に設定されている。 ●授業数は、第1章に11時間、第2章に20時間、第3章に16時間、第4章に21時間、第5章に26時間、第6章に19時間、第7章に14時間、教科書最後の「これからの社会を構想しよう」に3時間が配当され、標準授業時間数135時間のうち130時間を活用する配当で、適切である。予備時間は5時間設けられている。	おもに 特色3 p.29-40
	内容の程度・範囲および文章は、生徒の発達段階から見て適切か。	●本文は、 具体的に例示したり、歴史的事象の背景や因果関係までわかるようにしたりする など、丁寧でわかりやすくなっている。また、平易な表現にするなど、 中学生の発達段階が考慮されている。 ●本文、図版タイトル、全ての人名、キャプションの難しい漢字にはふりがなが付されている。また、固有名詞・歴史用語には適宜ふりがなが付されており、用語や熟語が正しく読めるように配慮されている。 ●文体は「です、ます」調の語り口で、生徒に親しみやすいように配慮されている。 ●中学校学習指導要領の学習範囲を逸脱せず、 基本的な用語や概念の理解を優先的に学べる ようになっている。	おもに 特色2 p.23-28 特色3 p.29-40
	学習を効果的かつ効率的に進めるための工夫がなされているか。	●各見開きは、本文、資料、側注などが 統一されたレイアウトで配置され、紙面の使い方が整理されている。 学習内容が定着するよう、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で統一し、構造化されている。 ●本文と資料の関連する箇所には、 図・写真や他ページへの適切な参照指示 が記載され、学習効果を高めるとともに、効率よく資料の活用ができるように工夫されている。 ●各見開きでは、 学習している時代がわかるように、時代ごとに色が統一されている。 紙面右端の時代を表す「 年表インデックス 」は、見返しに設置した「日本の歴史」および「世界の歴史」年表と対応しており、 時系列を確認しながら学習できるように工夫されている。 ●用語解説や関連資料が本文のページの側注欄に掲載されており、ページ間を移動する時間が省け、生徒が集中力を切らさずに授業を進められる。	おもに 特色3 p.29-40
内容の扱い/学習活動	課題解決的な学習を行うための構成・工夫がなされているか。	●単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、章末の「学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、 単元を通してそれぞれの問いを考えていくことで、課題解決的な学習ができる 構成になっている。 ●「学習を振り返ろう」では、「章の問い」に対して「 歴史的な見方・考え方 」を動かして考える作業課題より、 課題解決的な学習ができる工夫がなされている。 (p.158-160など) ●「アクティブ歴史」では 歴史的事象を考察し、解決への取り組みを考えるパフォーマンス課題を設定している。 (p.34-35、76-77、156-157、204-205、248-249)	おもに 特色3 p.29-40 および p.49-52

観点	観点の内容	『社会科 中学生の歴史』の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
内容の扱い/学習活動	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための構成・工夫がなされているか。	●「タイムトラベル」、「世界とのつながりを考えよう イラスト編」では、大きなイラストや重要な場面を探し出す「次の場面を探してみよう!」などの工夫で、 生徒の興味・関心を引き出し、主体的・対話的な学習活動にも使えるよう工夫されている。 ●「世界とのつながりを考えよう 地図編」では地図上からイラストを探し出す「やってみよう」などの工夫で、世界の歴史が一望しやすいよう工夫されている。 ●単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、章末の「学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、 単元のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できる 構成になっている。 ●本文のページの導入資料では、写真や資料に対して中学生に親しみやすいキャラクターが吹き出しで疑問を投げかけており、導入資料を用いて対話的な学習ができるよう工夫されている。 ●本文のページは左ページ上段に導入資料、右ページ上段に図版、写真、コラムを配置し、下部に本文を掲載する学習しやすいレイアウトで統一されている。また、相互にリンクが張られ、資料が活用しやすいよう工夫されている。 ●「タイムトラベル」は単元のはじめで 時代の特色を見直し、本文と関連付けて活用し、「学習を振り返ろう」のイラストの眺め直しで時代の振り返りができる よう工夫されている。 ●「学習を振り返ろう」では、 学習した知識をもとに、「歴史的な見方・考え方」を動かしながら主体的・対話的に「章の問い」を振り返ることで、「深い学び」につなげられる よう配慮されている。 ●第1章第2節「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では調査テーマの決め方、調査手順のまとめ方、発表のしかたなどが具体的に示されており、生徒が主体的に考え、対話的に学習を進められるよう配慮されている。(p.8-13) ●「アクティブ歴史」では、正解のない課題解決型学習を通して、意見交換や発表をする 対話的な学習を多く設定している。 対話的な学習を通して、 課題に粘り強く向き合い、さまざまな立場を踏まえて合意形成を目指す態度を身に付けられる ように工夫されている。(p.34-35、76-77、156-157、204-205、248-249) ●対話を促す「対話アイコン」を設置している。 対話的な学びを通して、自身の考えをより深めるとともに、他者の意見を尊重する態度を身に付けられる ように工夫されている。	おもに 特色1 p.5-22 特色3 p.29-40 および p.49-52
	基礎的・基本的な知識および技能を確実に習得するための工夫がなされているか。	●見開き1時間の紙面が、 興味・関心を引く「導入」→学習を見通せる「学習課題」→丁寧にわかりやすい「本文」→学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化され、基礎的・基本的な知識および技能が確実に習得できる ようになっている。 ●章の冒頭にある「章扉」、各時代の冒頭にある「タイムトラベル」のイラストや資料から学習内容を見直し、「 学習を振り返ろう 」で学習内容を振り返る学習活動ができる。 ●本文は、全編にわたり歴史的事象の背景や影響がわかるように 因果関係をふまえた上で、具体例を挙げながらわかりやすく記述 されている。また、文章で書かれた内容を補足し理解を促進する 図解や写真が多数掲載 されている。 ●「技能をみがく」コーナーが14か所設けられ、「 歴史的な見方・考え方 」を動かせる上で 必要な基礎的な技能が習得できる よう配慮されている。(p.7、8、10、35、39など) ●第1章「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では調査テーマの決め方、調査手順、必要な技能が系統だてて具体的に示されており、 技能を習得しやすい ように配慮されている。(p.8-13) ●本文側注およびQRコンテンツの中に 用語解説 が用意されている。	おもに 特色1 p.5-22 特色2 p.23-28 特色3 p.29-40 および p.49-52
	深い学びを実現させるための「思考力・判断力・表現力等」を育成するための配慮がなされているか。	●「タイムトラベル」は、異なる時代どうしを比較して考察できるようになっており、 思考力を養える ように配慮されている。 ●同じ時期の「世界とのつながりを考えよう イラスト編」と「タイムトラベル」を比較して考察できるようになっており、相互の関連を捉えられるように配慮されている。 ●本文のページの見開き右下には、「確認しよう」と「説明しよう」が設置されている。「確認しよう」には本時の学習での習得事項を確認する作業課題が、「説明しよう」には本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられている。これにより 言語活動を毎時間くり返し行い、思考力・判断力・表現力を育成 できるよう配慮されている。 ●各章末には「 学習を振り返ろう 」が配置され、 章の学習で得た知識・技能を生かして、「歴史的な見方・考え方」を動か せつつ、 単元を貫く問いに対して思考・判断・表現する課題 が設けられている。また、 思考ツールを用いて自分の考えを整理、構造化 できるように配慮されている。 ●学習内容と関連する歴史的事象を題材にした「 アクティブ歴史 」が5テーマ設けられ、一つのテーマについて資料をもとに生徒が自分なりに 思考・判断し、表現 できるように配慮されている。	おもに 特色1 p.5-22 特色3 p.29-40
	「思考力・判断力・表現力等」の育成につながる社会的な見方や考え方を働かせるための配慮がなされているか。	●学習指導要領で重視されている「 歴史的な見方・考え方 」を整理したページを設けて、歴史的分野の全体を通して動かせる見方・考え方が、わかりやすく説明されている。(巻頭8) ●「タイムトラベル」では「見方・考え方」が設けられ、「 歴史的な見方・考え方 」を動かしながら 時代の特色を 考えることができる。(p.134-135など) ●「世界とのつながりを考えよう」では「見方・考え方」が設けられ、「 歴史的な見方・考え方 」を動かしながら、 世界の歴史の特色や日本との関連を 考えることができる。 ●「学習を振り返ろう」では、 異なる二つの時代の「タイムトラベル」の眺め直しや話し合いを促す工夫 で、「歴史的な見方・考え方」を動かせるように工夫されている。(p.159など) ●巻末2には世界の歴史年表が設置され、巻頭ページや各ページ右端の日本の歴史年表と比べることで「 歴史的な見方・考え方 」を動かせるように工夫されている。 ●「歴史的な見方・考え方」を動かして考察するための視点を示す「見方・考え方アイコン」を設置している。(p.135、156、169など全28か所)	おもに 特色1 p.5-22 特色3 p.29-40 および p.49-52

観点	観点の内容	『社会科 中学生の歴史』の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
内容の扱い／学習活動	生徒の興味・関心を喚起させ、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い判型(AB判)で、写真や地図、年表などが大きく見やすく提示され、歴史への興味・関心が喚起されるように工夫している。 ●時代の冒頭に、時代の様子が生き生きと描かれたイラスト「タイムトラベル」が設けられ、世界とのつながりが重視される単元には特設「世界とのつながりを考えよう イラスト編」が設けられ時代への興味・関心を高めてから学習に入ることができるようになっている。「次の場面を探してみよう！」で重要な歴史事象を読み取り、本文の学習課題と関連付けられるなど、学習に意欲的に取り組めるように配慮されている。また「さくいんグリッド」などの工夫がなされ、主体的に学習に取り組めるように配慮されている。 ●「世界とのつながりを考えよう 地図編」では、「やってみよう」を設け、地図上からイラストを探す活動から、世界の中の日本を捉えられるよう工夫されている。 ●生徒にとって親しみやすい中学生のキャラクターが各ページに配置され、発問や気付き、学習の手がかりや示唆などを提示することで、主体的に学習に取り組めるように配慮されている。 ●章の冒頭の「扉」には、時代を象徴する資料を大きく掲載している。 ●各見開きの左上に、本時の導入となる資料が設けられている。ワイドな写真から時代のイメージをつかんだり、驚きや疑問をもったりして、学習への意欲を引き出せるようになっている。 	おもに 特色1 p.5-22 特色3 p.29-40
	小学校・高等学校との接続や関連に配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●巻頭2の右端には小学校で学習するおもな出来事を中心に構成した日本の歴史年表が設置され、各見開きの紙面の右端につけたインデックスと関連させることで、中学校での歴史学習にスムーズに入れるよう工夫されている。 ●第1章「歴史のとらえ方と調べ方」には、小学校の学習指導要領で示されたおもな人物や出来事を振り返るイラストや年表が設けてあり、中学校での歴史学習に向けた橋渡しとなるように配慮されている。 ●各章の冒頭の「扉」に「小学校で学んだ人物と主な出来事」の年表が設置され、小学校で学んだ人物と出来事を確認することで、これから学習する内容にスムーズに入れるように工夫されている。 ●本文のページ脚注欄には「小学校・地理・公民・他分野との関連」コーナーが設けられ、小学校で学習した内容を確認できるよう、関連用語が提示されている。(全編) ●資料には「小・地・公アイコン」が設けられ、小学校の学習と関連した資料であることを確認できる。(全編) 	おもに 特色3 p.29-40 および p.53-54
	他分野との接続や関連に配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●本文ページ脚注欄には「小学校・地理・公民・他教科との関連」コーナーが設けられ、地理的分野・公民的分野との接続ができるよう、関連用語が提示されている。また、資料には「小・地・公」アイコンが付され、地理的分野、公民的分野との関連を確認できる。(全編) ●積極的に地図が取り入れられており、地理的分野との接続が考慮されている。 ●地図帳の活用が効果的な場面には「地図帳活用アイコン」を付し、地図帳の活用を促している。 ●「環境・エネルギー」「情報・技術」「人権・多文化」「平和・安全」「伝統・文化」「防災」といった、現在および将来の社会が直面する課題の歴史的経緯を取り上げたコラム「未来に向けて」が63か所設置され、公民的分野への接続が考慮されている。 ●「アクティブ歴史」では地理的分野や公民的分野とも関連するテーマを設定し、他分野の学習と関連する視点も提示されている。(p.248-249など) ●最終章の「これからの社会を構想しよう」では歴史での学習事項を「現在」[SDGs]とつなげて考える活動を設定し、公民的分野への接続としている。 	おもに 特色3 p.29-40 特色4 p.41-44 および p.52-56
	我が国の伝統・文化、宗教に対する理解を深められる配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●文化史のページでは、絵画・建築物・仏像などの資料を大きく掲載したり、当時の文化や文化を生み出した社会的背景について丁寧に記述したりして日本の伝統・文化、宗教に対する理解が深められるように配慮されている。 ●琉球とアイヌ民族についての記述が充実し、多文化が尊重される社会を意識できるように配慮されている。(p.31、88-89、130-131、198-199など) 	おもに 特色2 p.23-28
	我が国の領土・領域を正しく理解できる配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●特設ページ「歴史を探ろう 日本の領土画定と近隣諸国」において、日本の領土画定と領有をめぐる諸課題について北方領土、竹島、尖閣諸島のそれぞれの歴史的経緯がわかるようにまとめられている。(p.286-287) 	おもに 特色2 p.23-28 および p.53-56
	補充的な学習や発展的な学習に対して、そのような工夫・配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●具体例を交えた本文やそれを補足する図解などによって、基礎的・基本的な学習内容が定着し、補充的な学習を行いやすくなっている。 ●5か所に設置された「アクティブ歴史」では、協働的な学びが実践できる工夫により、学習を一層深められるようになっている。(p.34-35、76-77、156-157、204-205、248-249) ●第1章「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では、協働学習形態の提示が行われている。(p.8-13) ●「アクティブ歴史」では、習得した知識を活用してパフォーマンス課題に取り組むことができる。(p.34-35、76-77など) 	おもに 特色3 p.29-40 特色4 p.41-44 および p.49-52
生徒が家庭でも主体的に自学自習できる配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書の冒頭には「教科書を活用した学び方」「タイムトラベルの学習のしかた」が掲載され、自学自習がしやすいよう配慮されている。(巻頭5-9、p.14) ●QRコンテンツでは、学習内容に関連する動画や「学習を振り返ろう」の解答などが閲覧でき、生徒が自学自習しやすいように工夫されている。(巻頭6など全64か所) 	おもに 特色5 p.45-48	
課題への対応	環境教育に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●コラム「未来に向けて 環境・エネルギー」が9か所設置され、資源の保護や環境保全に取り組んだ人々の姿が紹介されている。(p.121「大規模建築と森林伐採」、p.155「江戸のごみを利用した農業」など) 	おもに 特色4 p.41-44

観点	観点の内容	『社会科 中学生の歴史』の特色 ※(青字)は教科書のページ	本資料での特色と掲載ページ
今日的な課題への対応	防災に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●コラム「未来に向けて 防災」が8か所設置され、自然災害に立ち向かった人々の姿が紹介されている。(p.97「自然を生かした信玄堤」、巻末2「歴史から防災を学ぼうー神戸市を例に」など) 	おもに 特色4 p.41-44
	人権・平和教育の推進のために、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●コラム「未来に向けて 人権・多文化」が22か所設置され、人権に関する諸課題の経緯について紹介されている。(p.93「中世の老人と子ども、女性」、p.201「自由は土佐の山間より」など) ●コラム「未来に向けて 平和・安全」が15か所設置され、人々が平和に向けてどのように取り組んできたのかが紹介されている。(p.255「芸術に込めた反戦の意志」、p.263「ドイツのユダヤ人迫害に抵抗した日本人」) 	おもに 特色4 p.41-44
	グローバル化に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●第7章第3節「これからの日本と世界」では、グローバル化が進む世界と日本について、歴史的経緯や課題を学習できる本文記述がなされている。(p.298-303) ●コラム「未来に向けて 世界に広がる日本の文化」を設定している。(p.298) 	おもに 特色1 p.5-22 特色4 p.41-44
	少子高齢化に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●第7章第2節「4日本の社会と国際関係の変化」では、少子高齢化の社会的背景や影響について、現代社会が抱える課題として考えられるように記述されている。(p.292) 	おもに 特色2 p.23-28 特色4 p.41-44
	情報化に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●第7章第3節「3国際社会におけるこれからの日本」では、社会の新たな潮流について、人やモノ・情報の移動や交流が活発になった一方で、反グローバル化の動きや国際情勢にもふれて、今後の課題について考えられるように記述されている。(p.302) 	おもに 特色4 p.41-44
表記・表現	「持続可能な開発目標」(SDGs)に関して、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●先人の取り組みを未来につなげるためのコラム「未来に向けて」がSDGsに通ずる「環境・エネルギー」「情報・技術」「人権・多文化」「平和・安全」「伝統・文化」「防災」の観点で63か所設置されている。(p.139「森林伐採と植林」など) ●「これからの社会を構想しよう」ではSDGsについて、社会的な課題として主体的・対話的に考えられる工夫がなされている。(p.307-309) 	おもに 特色4 p.41-44
	統計、挿絵、写真、図表などは鮮明、正確かつ適切であり、相互の関連がはかれるなど学習効果を高めるための工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●本文の記述を補足する写真や図表などが大判で豊富に掲載され、学習を深められるようになっている。 ●学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号、「タイムトラベル」への参照記号などのリンク機能が設けられ、資料の活用を促している。 ●資料の読み取りのポイントを示した「資料活用」アイコンが随所に設置されている。 ●さまざまな時代や場面で日本の歴史に足跡を残した人物を紹介する「人物コラム」のコーナーが側注欄に49名分設けられ、歴史により親しみが持てるように工夫されている。また、巻末には、教科書で扱っている人物を検索できる「人物さくいん」が311人分設けられている。(p.310-311) ●歴史的分野の学習に必要な用語を解説した「解説」のコーナーが側注欄に51項目設けられている。文章だけでは理解しづらい用語には、図解や写真が添えられて視覚的に理解が深まるように工夫されている。(p.162側注「近代の政治体制」など) 	おもに 特色1 p.5-22 特色2 p.23-28 特色3 p.29-40 特色5 p.45-48
	特別支援教育やインクルーシブ教育に対して適切な配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●本文や図版などでは、文字をはっきり読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)が使用され、誤読を防ぐように配慮されている。 ●見開きのデザインや、グラフ・地図などの資料には、色覚特性をもつ生徒も識別しやすい色や模様が使用され、カラーユニバーサルデザインの配慮がなされている。 ●色数の多いグラフや地図には、模様や線種、記号などが使用され、色以外での区別ができるように配慮されている。 ●図版が色で囲まれ、どこまでが同一の図版か読み取りやすいように配慮されている。 ●各見開きのデザインは、生徒が学習しやすいように本文、資料、側注などが統一されたレイアウトで整理されている。 ●見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が右端に設置され、一目で学習している時代がわかるように配慮されている。 ●反射を抑えた紙が用いられ、読み取りやすくなるように配慮されている。 	おもに 特色3 p.29-40 および p.57-58
印刷・装丁等	紙質や印刷の鮮明さなど、生徒の利便性への配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●写真の印刷は鮮明で見やすくなっている。 ●地図などの図版は、記号や注記文字が明瞭で読み取りやすいように配慮されている。 ●紙は、反射を抑えつつ、鮮明に発色して裏写りせず、かつ文字も書き込める軽量なものが使用されている。 ●生徒が家庭に持ち帰ることを想定し、軽い紙が用いられている。 	おもに p.57-58
	造本は3年間の使用に耐えられる配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●表紙の材料は引っ張り、折りなどに強い用紙が使用され、さらに、表面の摩耗・汚れを防ぐためにポリプロピレンシートが貼られており、長期間の使用に耐えられる。 ●製本は、針金綴じよりも強度があり、かつ重量の軽いPUR製本が用いられている。これにより本が大きく開くため、机の上を開いたまま置くことができる。 	
	用紙・インキ等は、環境への配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●古紙および環境に優しいフレッシュパルプが用いられている。インキには国産米の米ぬかから作られるライスインキが使用され、環境保全への配慮がなされている。 ●針金を使わないPUR製本により、資源を節約すると同時に、リサイクルしやすくなっている。 	
サポート体制	デジタル教科書・教材や教師用指導書などのサポート体制はどのようになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●学習者用デジタル教科書、学習者用デジタル教科書+教材、指導者用デジタル教科書(教材)、教師用指導書、拡大教科書が令和7年4月までに発刊される予定である。 	おもに p.59-62



『社会科 中学生の歴史』の全体構成(もくじ)

令和7(2025)年度発刊
歴史046-72
AB版 336ページ

部・章・節	おもな内容	教科書ページ	本資料での掲載ページ
巻頭	未来に向けてよりよい社会を目指して	巻頭 1-2	41
	教科書を活用した学び方	巻頭5-6	—
	歴史的分野の学習の全体像	巻頭7	—
	歴史的な見方・考え方	巻頭8	49
	考えを整理する方法 ～思考ツールを活用しよう～	巻頭9	36
第1章 歴史のとらえ方と調べ方	2-3	—	
第1節 歴史の流れと時代区分	4-7	—	
第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた	8-14	—	
第2章 古代国家の成立と東アジア	15	—	
第1節 人類の登場から文明の発生へ	16-25	—	
第2節	タイムトラベル①②	26-27	11-12
	東アジアのなかの倭(日本)	28-33	—
第3節	アクティブ歴史 前方後円墳の役割を考察する	34-35	—
	タイムトラベル③	36-37	11-12
第3節	中国にならった国家づくり	38-49	—
	世界とのつながりを考えよう 地図編①	44-45	19-20、 21-22
	世界とのつながりを考えよう イラスト編①	50-51	15-16、 21-22
第4節	タイムトラベル④	52-53	11-12
	展開する天皇・貴族の政治	54-59	—
	学習を振り返ろう	60-62	—
第3章 武家政権の成長と東アジア	63	—	
第1節	タイムトラベル⑤	64-65	11-12
	武士の世の始まり アクティブ歴史 武士の暮らしから考察する	66-75	—
第2節	世界とのつながりを考えよう 地図編②	78-79	—
	武家政権の内と外 歴史を探ろう 東アジアに開かれた窓口 博多	78-89	25-26
第3節	タイムトラベル⑥	90-91	1-2、11-12
	人々の結びつきが強まる社会	92-101	—
	学習を振り返ろう	102-104	—
第4章 武家政権の展開と世界の動き	章扉	29、32	
第1節	大航海によって結びつく世界	106-113	—
	世界とのつながりを考えよう 地図編③	110-111	—
第2節	タイムトラベル⑦	114-115	11-12
	戦乱から全国統一へ	116-123	—
第3節	武士による全国支配の完成	124-131	25-26
	歴史を探ろう 琉球とアイヌ民族の暮らし	132-133	—
第4節	タイムトラベル⑧	134-135	5-12、29、 32
	天下泰平の世の中 歴史を探ろう 昆布ロードと北前船	136-145	—

部・章・節	おもな内容	教科書ページ	本資料での掲載ページ
近世	社会の変化と幕府の対策	146-153	27-34
	第5節 歴史を探ろう 世界有数の百万都市 江戸	154-155	—
	アクティブ歴史 赤穂事件を考察する	156-157	39-40
	学習を振り返ろう	158-160	31、35- 38、43
第5章 近代国家の歩みと国際社会	161	37-38	
第1節	欧米諸国における近代化	162-175	—
	世界とのつながりを考えよう イラスト編②	168-169	13-14、 17-18
	世界とのつながりを考えよう 地図編④	172-173	—
第2節	開国と幕府の終わり	176-183	—
第3節	タイムトラベル⑨	184-185	11-12、 17-18
	明治政府による近代化の始まり	186-191	—
第4節	歴史を探ろう 世界に開かれた港 横浜	192-193	—
	近代国家への歩み	194-203	—
第5節	歴史を探ろう 移住と開拓が進む北海道	198-199	—
	アクティブ歴史 『三酔人経綸問答』を考察する	204-205	—
第6節	帝国主義と日本	206-213	—
第7節	アジアの強国の光と影	214-223	—
第8節	歴史を探ろう 『絹の道』と日本の製糸業	216-217	23
	学習を振り返ろう	224-226	—
第6章 二度の世界大戦と日本	227	—	
第1節	第一次世界大戦と民族独立の動き	228-235	—
第2節	タイムトラベル⑩	236-237	11-12
	高まるデモクラシーの意識	238-245	—
第3節	歴史を探ろう 発展する産業都市 大阪・神戸	246-247	—
	アクティブ歴史 『母性保護論争』を考察する	248-249	—
第4節	タイムトラベル⑪	250-251	11-12
	戦争に向かう世論	252-259	—
第5節	歴史を探ろう 長野県から見る満州移民	260-261	—
	第二次世界大戦の惨禍	262-271	—
第6節	歴史を探ろう 戦場となった沖縄	268-269	—
	学習を振り返ろう	272-274	—
第7章 現在に続く日本と世界	275	—	
第1節	タイムトラベル⑫	276-277	3、11-12
	敗戦から立ち直る日本	278-283	—
第2節	世界の多極化と日本の成長	284-297	—
第3節	歴史を探ろう 日本の領土画定と近隣諸国	286-287	—
	これからの日本と世界	298-303	—
	学習を振り返ろう	304-306	—
	これからの社会を構想しよう	307-309	43-44

『社会科 中学生の歴史』著作関係者

※所属・肩書きは令和6(2024)年3月時点のもの

監修者

黒田 日出男 東京大学名誉教授
小和田 哲男 静岡大学名誉教授
成田 龍一 日本女子大学名誉教授

著作者

相磯 達夫 神奈川県横浜市立
中川中学校主幹教諭
上里 隆史 沖縄県浦添市立図書館元館長
梅津 正美 鳴門教育大学理事・副学長
小川原 正道 慶應義塾大学教授
片山 博子 島根県公立中学校元校長
木村 直樹 長崎大学教授
黒田 智 早稲田大学教授
小宮 京 青山学院大学教授
土屋 武志 愛知教育大学特別教授
時任 秀仁 神奈川県川崎市立
御幸中学校総括教諭
奈良岡 聰智 京都大学教授
仁藤 敦史 国立歴史民俗博物館教授
水谷 哲郎 滋賀県草津市立草津中学校教諭
株式会社帝国書院

編集委員

井上 昌善 愛媛大学准教授
江口 勇治 筑波大学名誉教授
鴛原 進 愛媛大学教授
米田 豊 兵庫教育大学名誉教授
阪上 弘彬 千葉大学准教授
志村 喬 上越教育大学教授
高岡 麻美 玉川大学教授
永田 忠道 広島大学准教授
濱野 清 兵庫教育大学教授
細谷 美明 東京都公立中学校元校長
松岡 尚敏 宮城教育大学教授
吉田 剛 宮城教育大学教授
吉村 功太郎 宮崎大学教授

編集協力者

井寄 芳春 大阪府立咲くやこの花中学校校長
上西 好悦 京都府久御山町立久御山中学校教諭
太田 和幸 北海道札幌市立月寒中学校校長
片山 峻 島根県松江市立湖東中学校教諭
木村 諭 東京都葛飾区立奥戸中学校主任教諭
小柴 瑛 群馬県藤岡市立西中学校教諭
小林 朗 新潟県新潟市立小合中学校教諭
坂口 洋幸 鹿児島県鹿児島市立西紫原中学校教諭
茂 一美 静岡県浜松市立北部中学校教諭
高倉 祐一 宮城県仙台市公立中学校元校長
長井 利光 東京都中野区立明和中学校主任教諭
中岡 隆之 大阪府堺市立大泉中学校教諭
南里 昌芳 佐賀県佐賀市立昭栄中学校主幹教諭
林原 和彦 鳥取県伯耆町立溝口中学校教諭
平山 裕人 コロボックル学びの家
矢ヶ崎 憲 山梨県北杜市立泉中学校教諭
山内 敏男 兵庫教育大学教授
山本 英明 栃木県那須塩原市立塩原小中学校校長
米津 一豊 神奈川県横浜市立六角橋中学校教諭

特別支援教育に関する監修・校閲者

柏倉 秀克 桜花学園大学教授
丹治 達義 筑波大学附属視覚特別支援学校教諭

防災教育に関する監修・校閲者

矢守 克也 京都大学教授

「世界とのつながりを考えよう」

イラスト編 監修・校閲者

林 美希 富山大学講師

中学校 社会科Webのご案内

中学校社会科Webは
こちら



<https://www.teikokushoin.co.jp/jhs/>

帝国書院 中学校 検索

帝国書院 中学校社会科教科書のご案内

教科書 QRコンテンツ 教師用指導書 デジタル教科書・教材 Teikoku LABO

社会科で
未来を拓く

令和7（2025）年度以降用
教科書のご案内

地図帳	地理	歴史	公民
詳しく見る	詳しく見る	詳しく見る	詳しく見る

帝国書院の新しい教科書と、関連する教材をご紹介します。

令和7(2025)年度版 **内容解説資料**

部分サンプル

帝国書院

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-29
TEL 03-3262-4795(代)
URL <https://www.teikokushoin.co.jp/>
©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2024

本資料に掲載している内容は、一部変更となる場合があります。
本資料は、環境にやさしい再生紙・植物油インキを使用しています。
本書の無断転載・複製を禁じます。